關東大震畫報

東京日日新聞社

415-10
1200501471453

415
10

Ⓣ

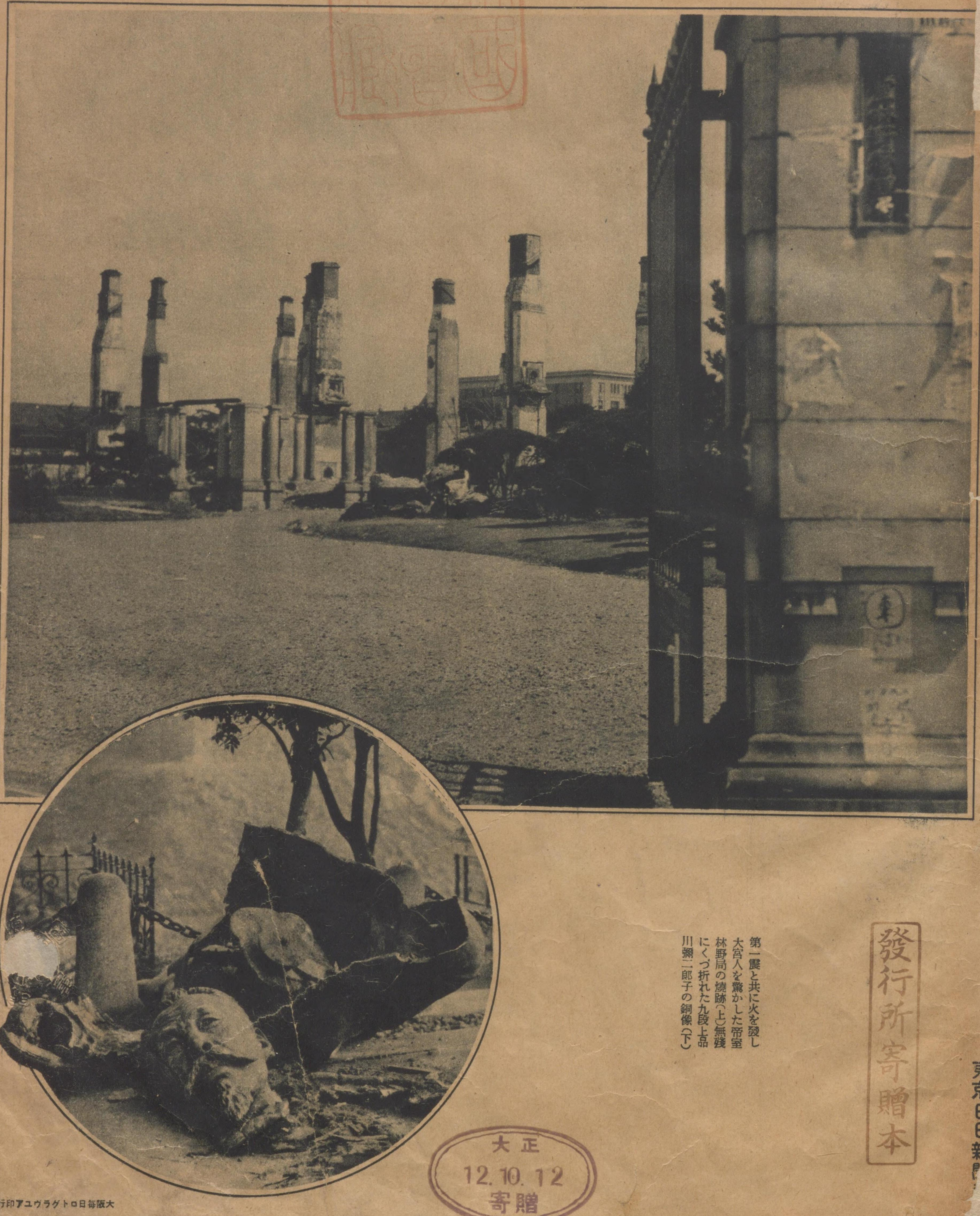
帝國圖書館藏

420-70

明治二十五年三月八日
第三種郵便物認可

關東大震畫報

大正十二年十月十日
第一萬六千九百〇二號附錄



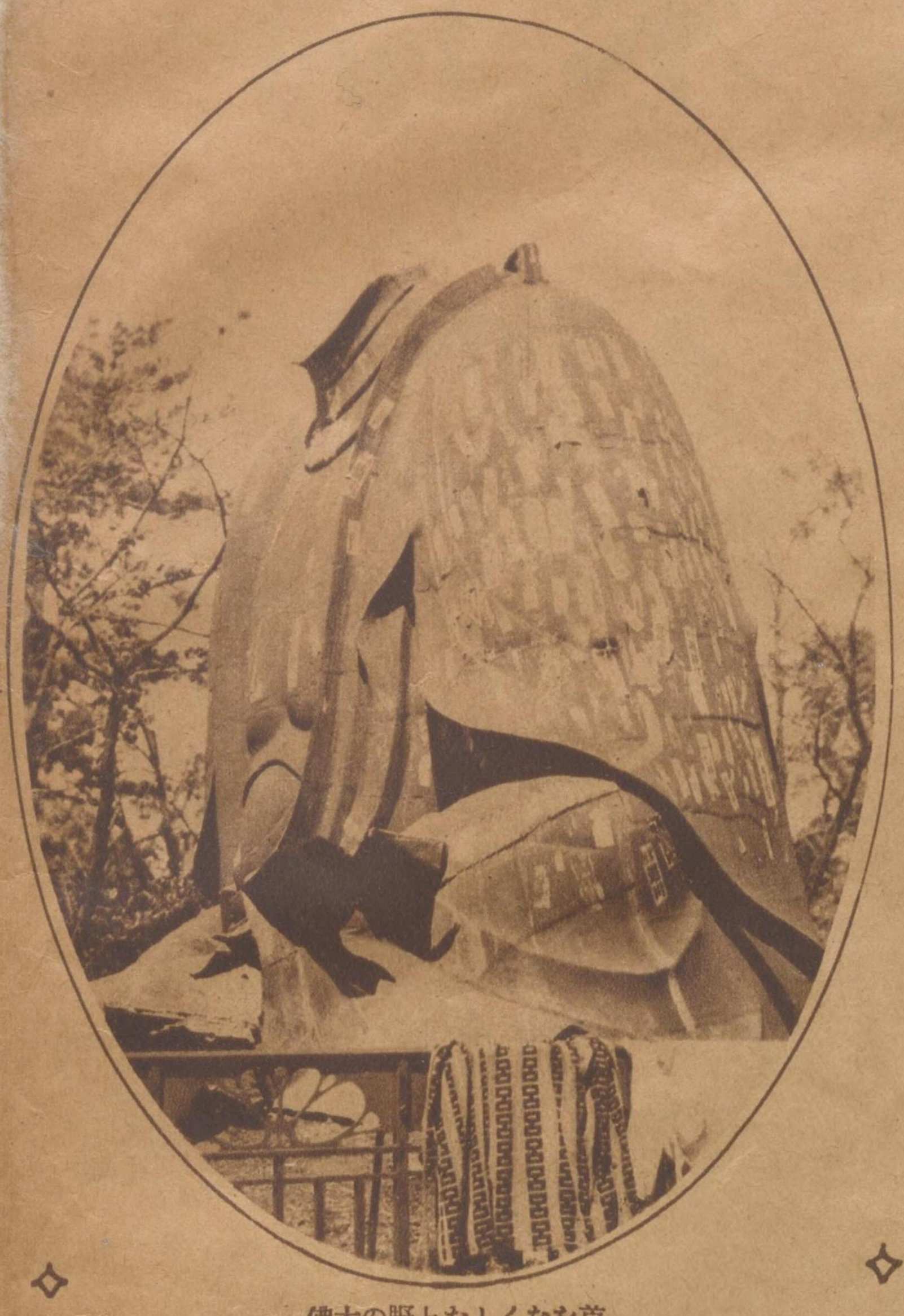
第一震と共に火を發し大宮人を驚かした帝室林野局の燒跡（上）無殘にくづ折れた九段上品川彌二郎子の銅像（下）

發行所寄贈本

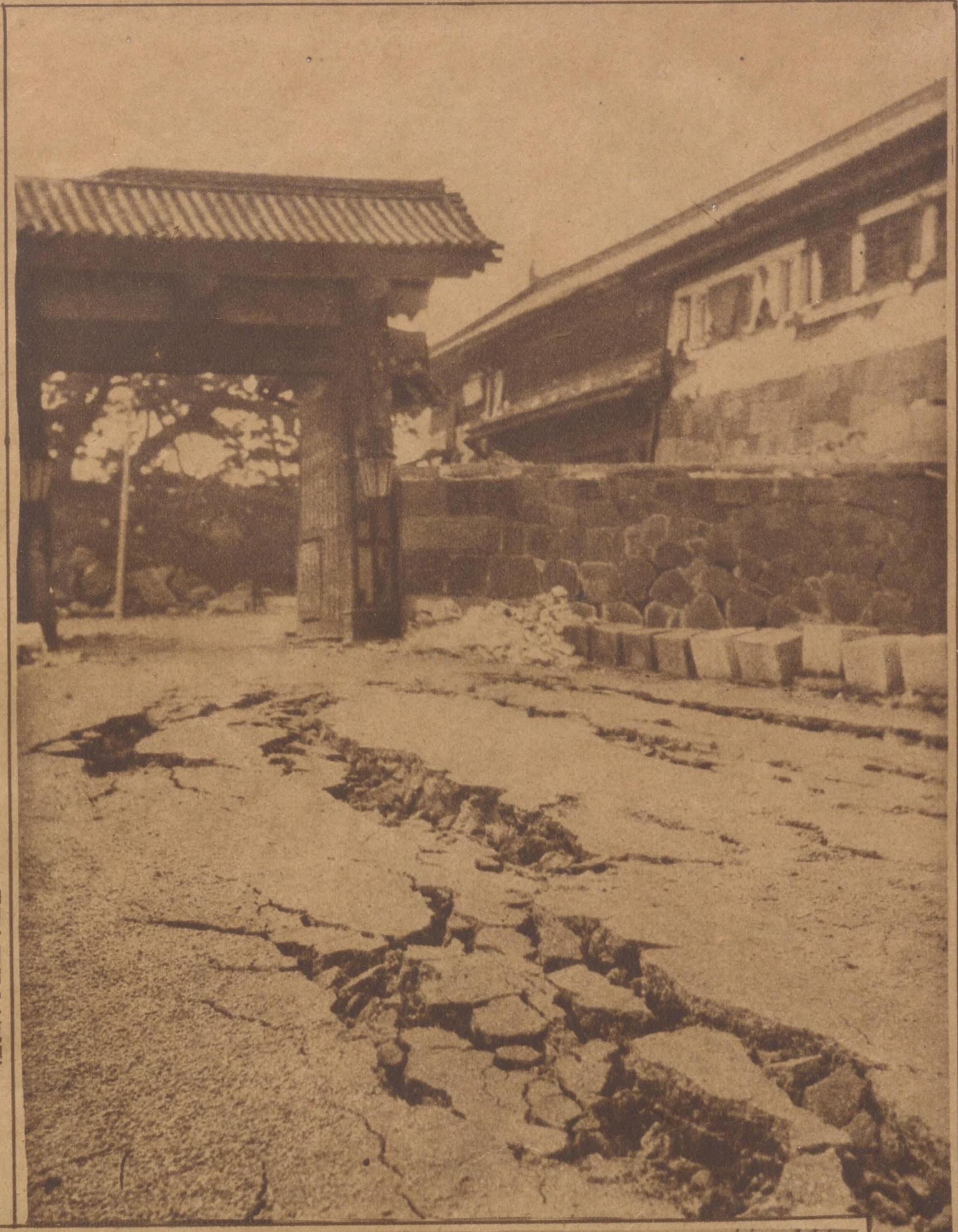
大正
12.10.12
寄贈

大阪毎日ロトグラヴユア印行

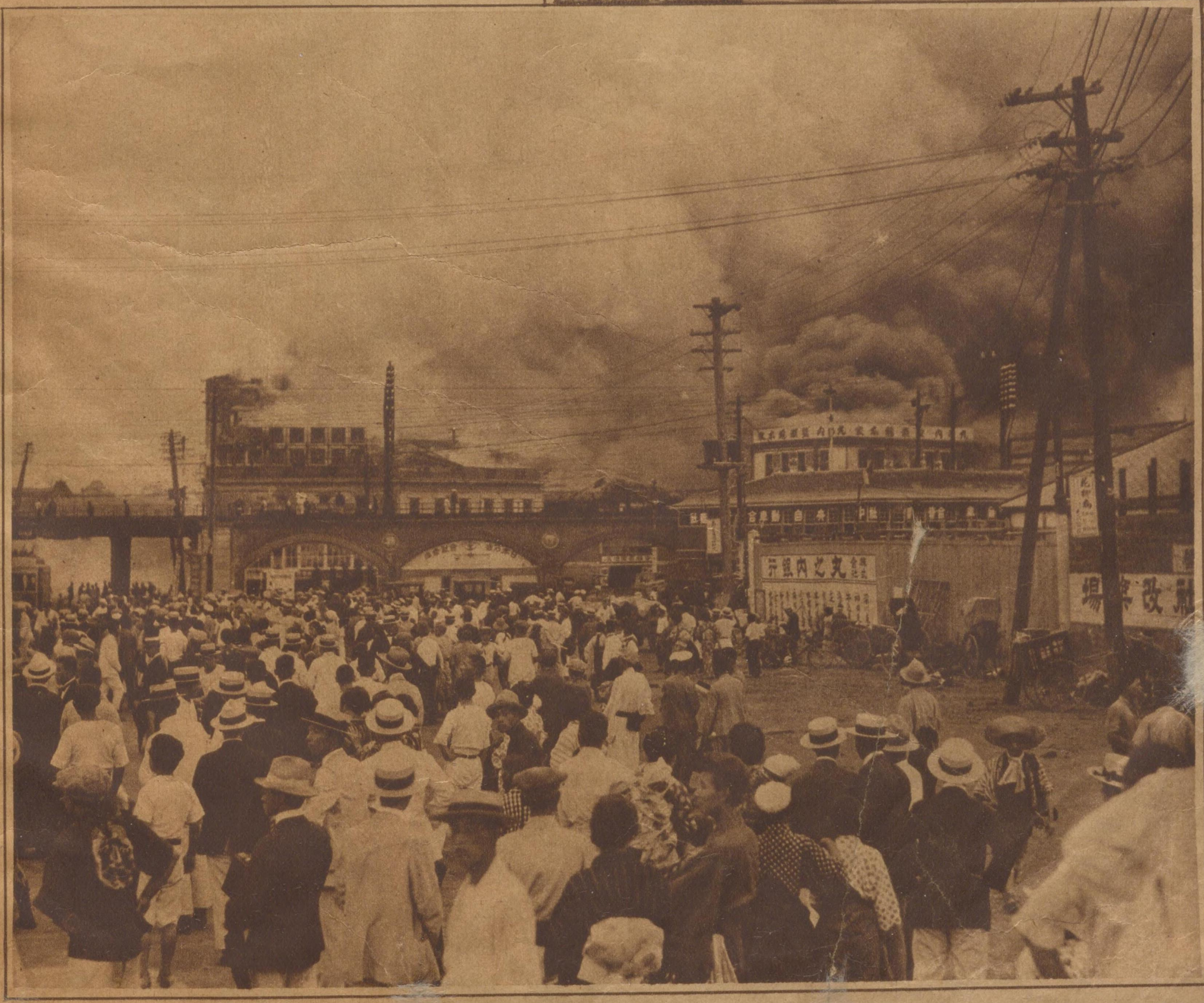
東京日日新



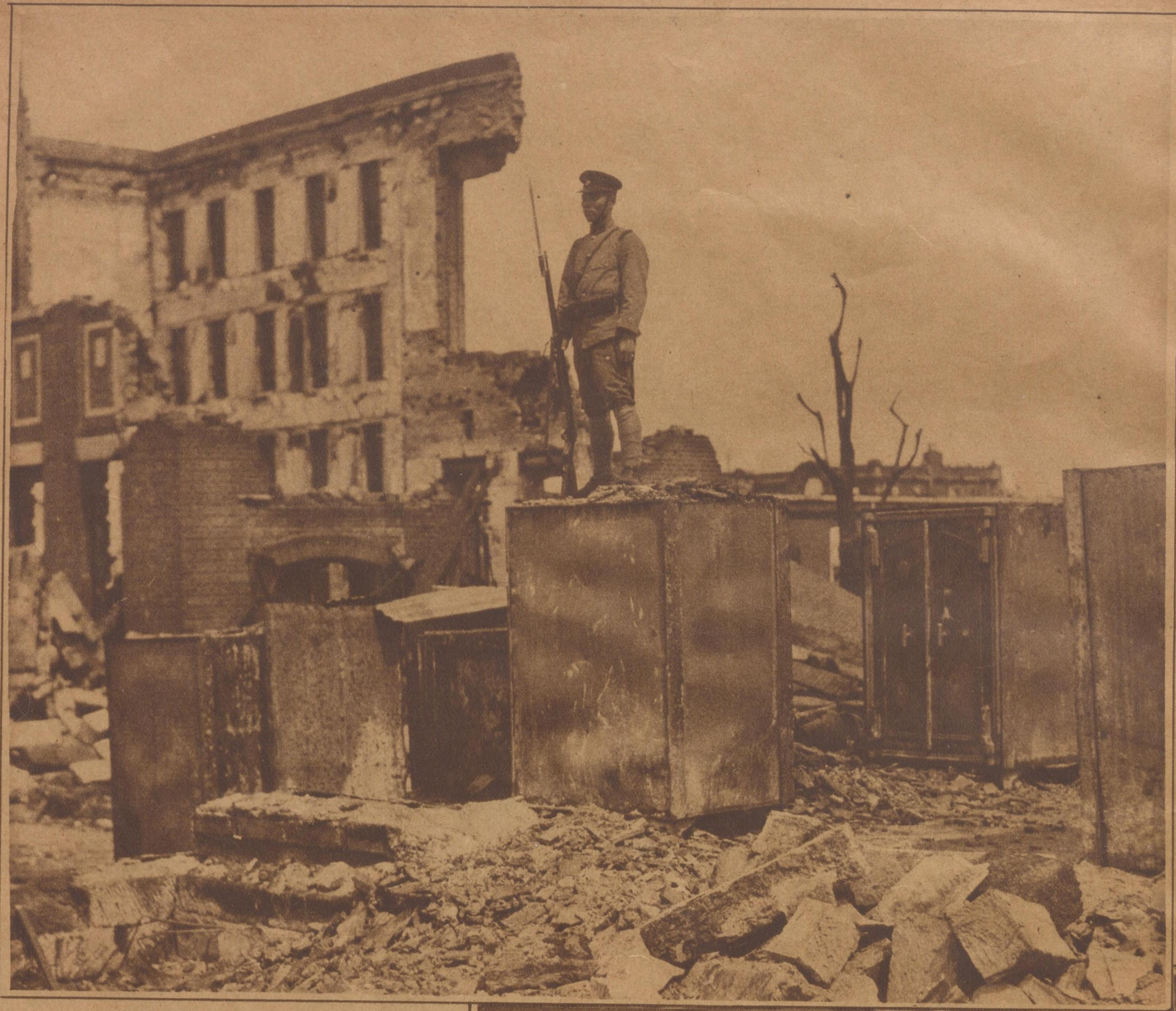
首をなくした上野の大佛



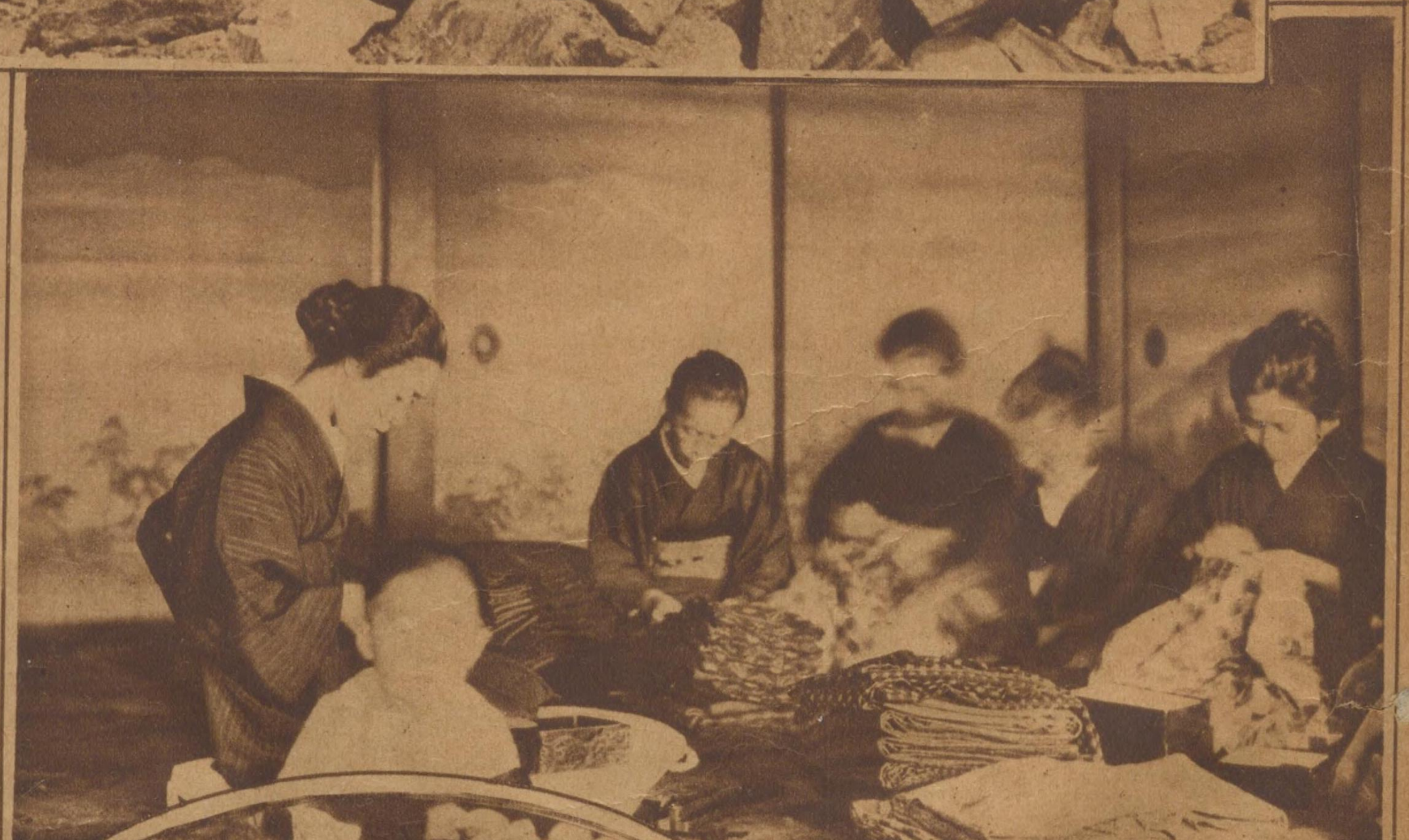
和田倉門前の大龜裂



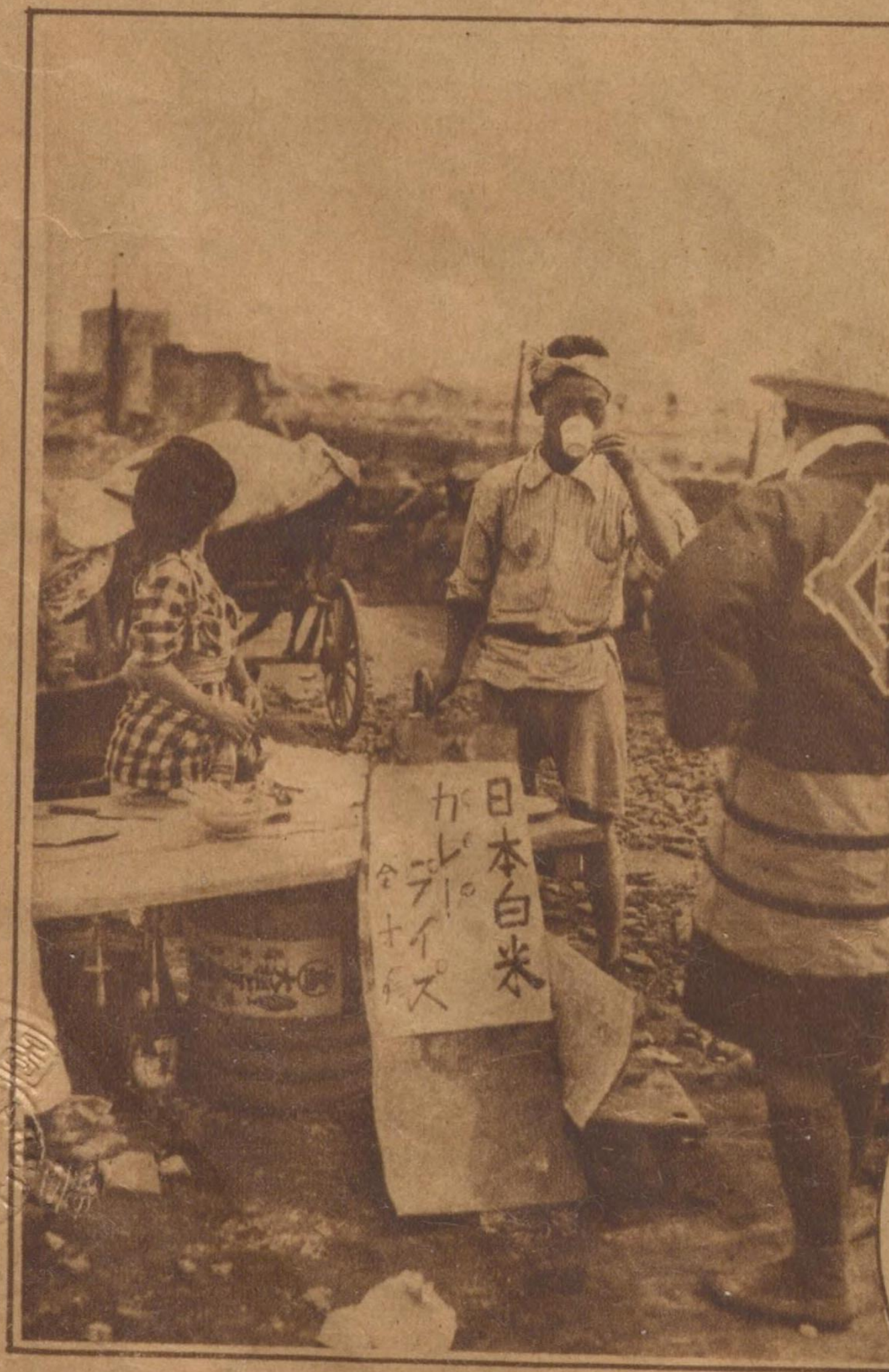
日比谷附近に火の手上る



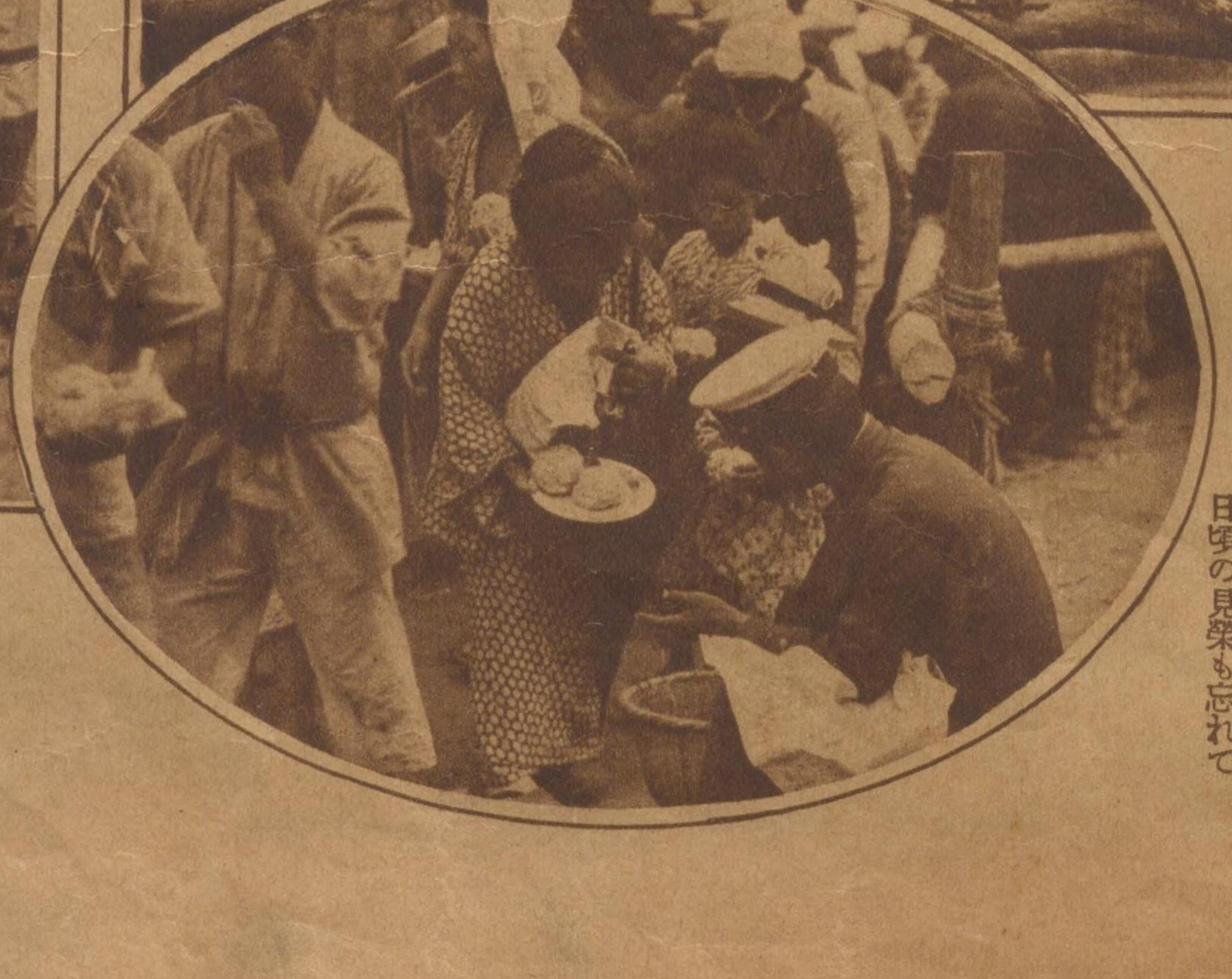
歩哨に守らるゝ大藏省燒跡の金庫



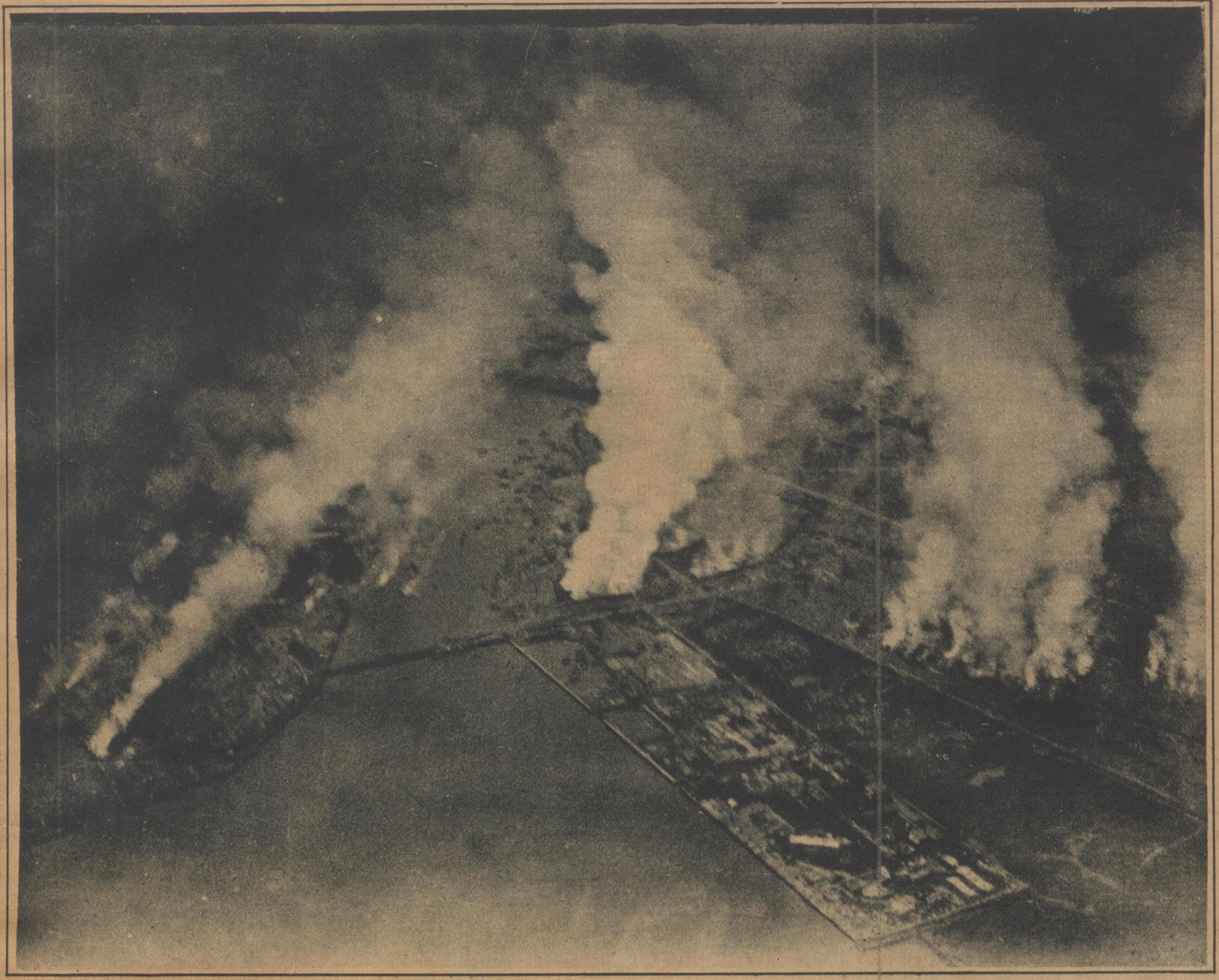
お手づから罹災民への衣服を縫はせ給ふ東久邇宮妃聰子内親王殿下



玄米跋扈の反面



日頃の見榮も忘れて

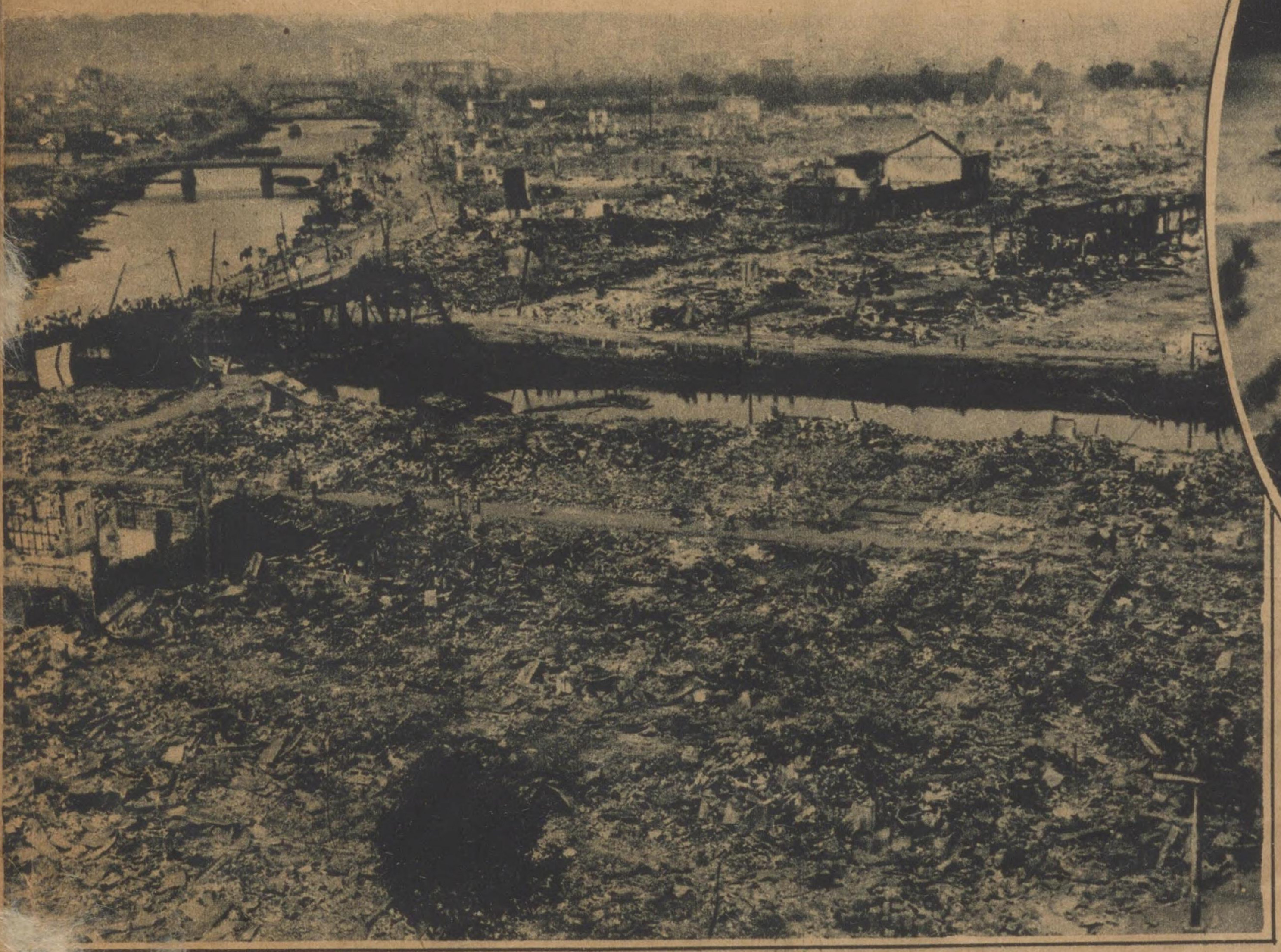


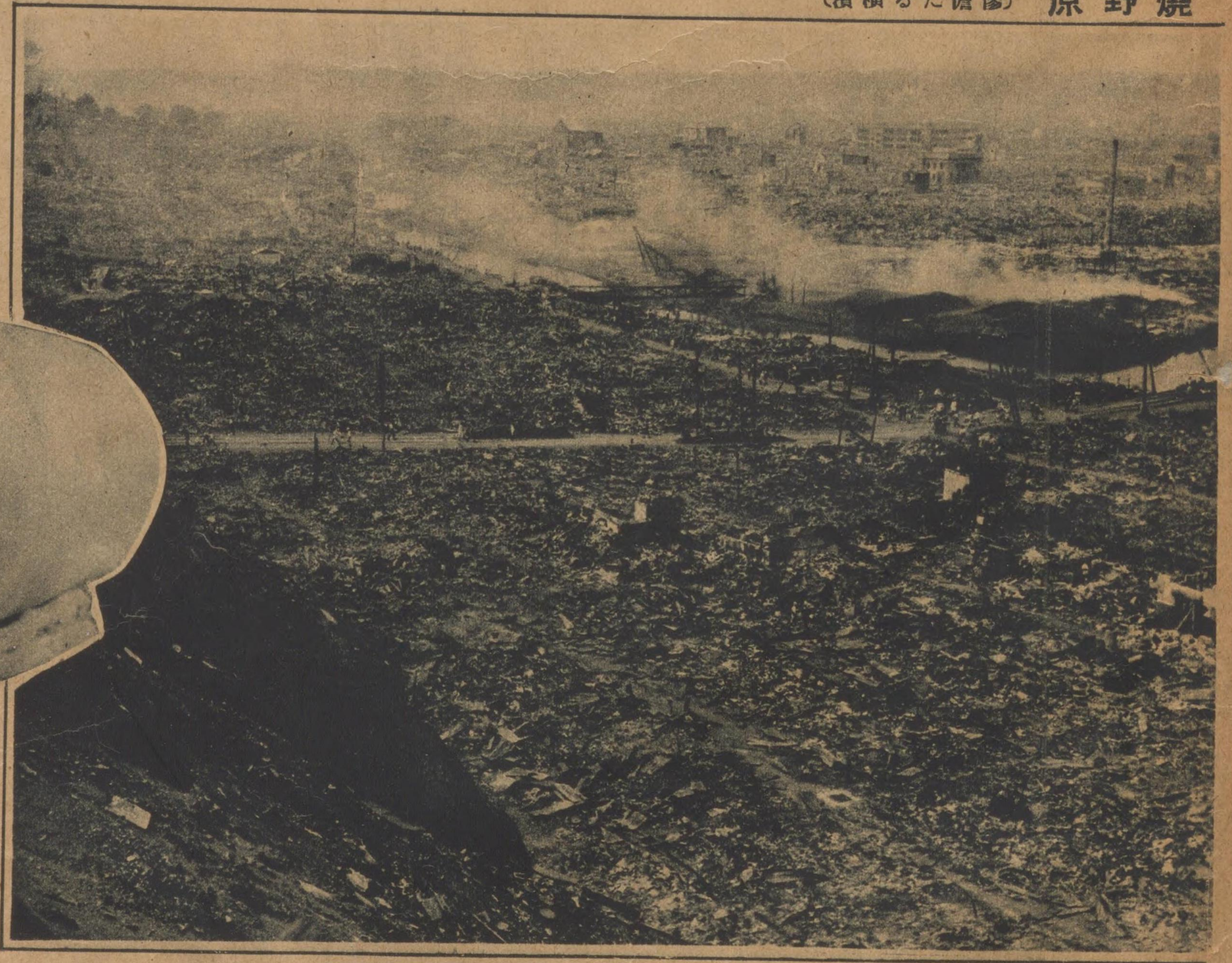
飛行機上より見た隅田河口の猛火

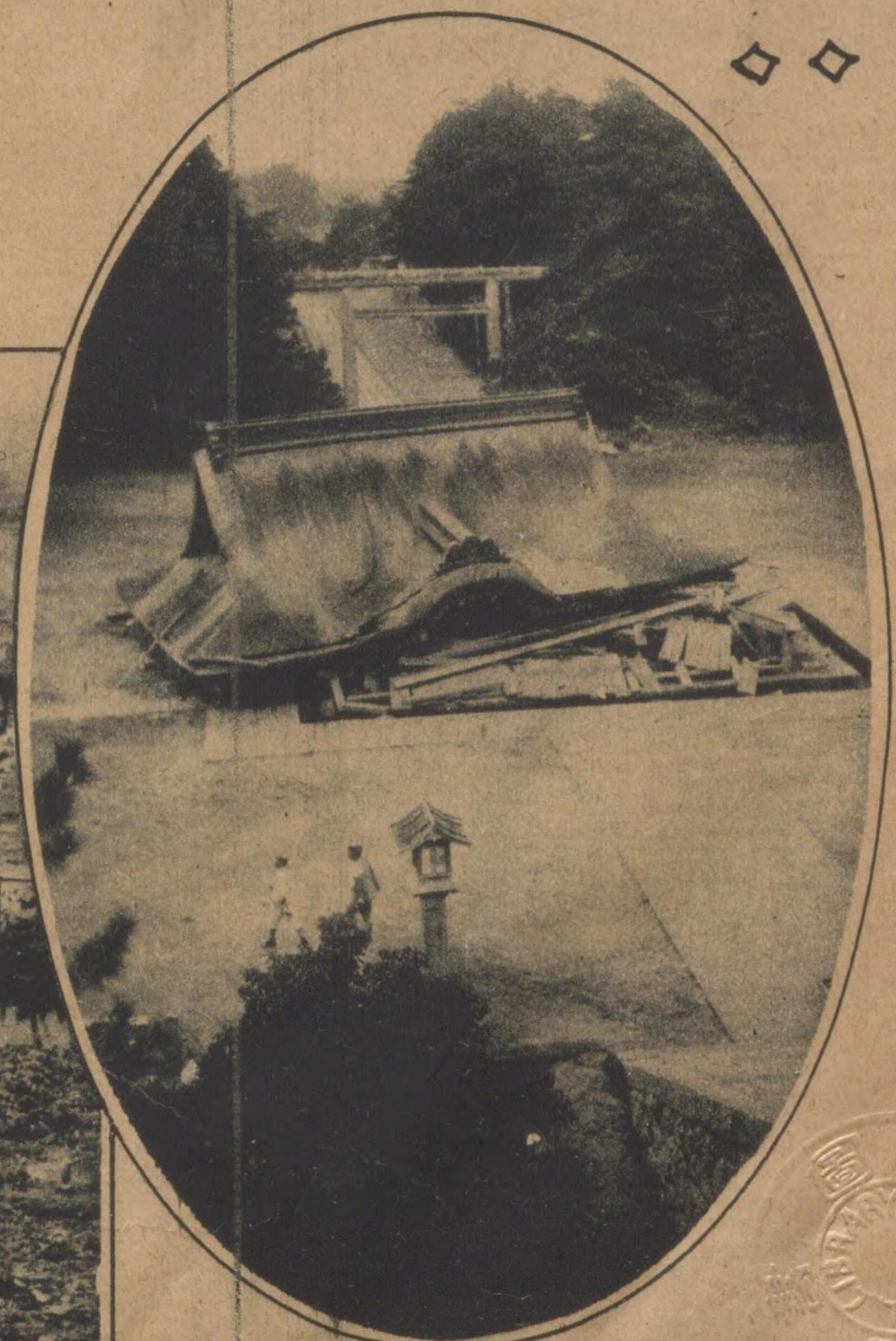
◇ ◇

◇

見渡す限り燒野原（慘憺たる横濱）

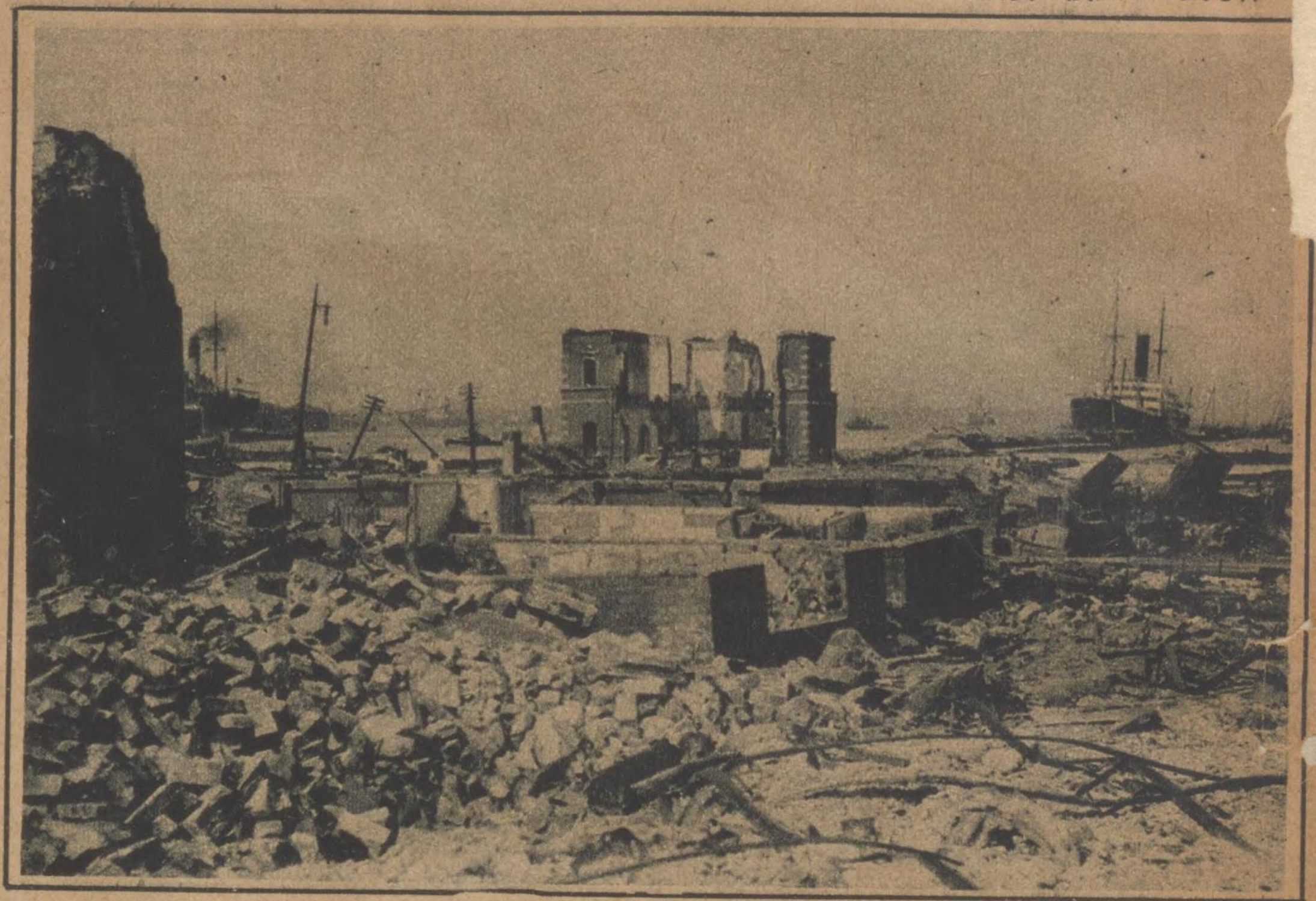




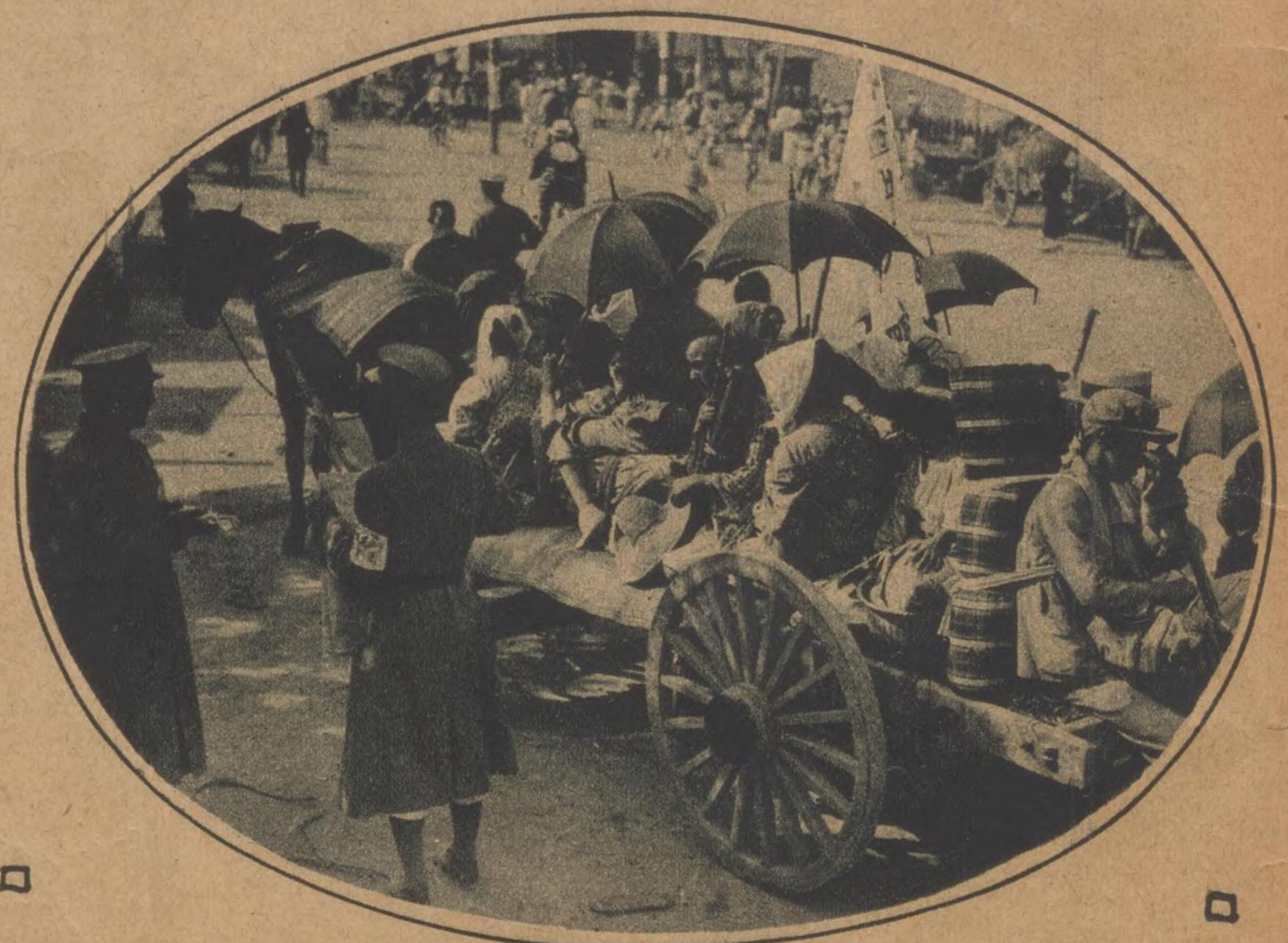


倒壞した鎌倉八幡宮の拜殿

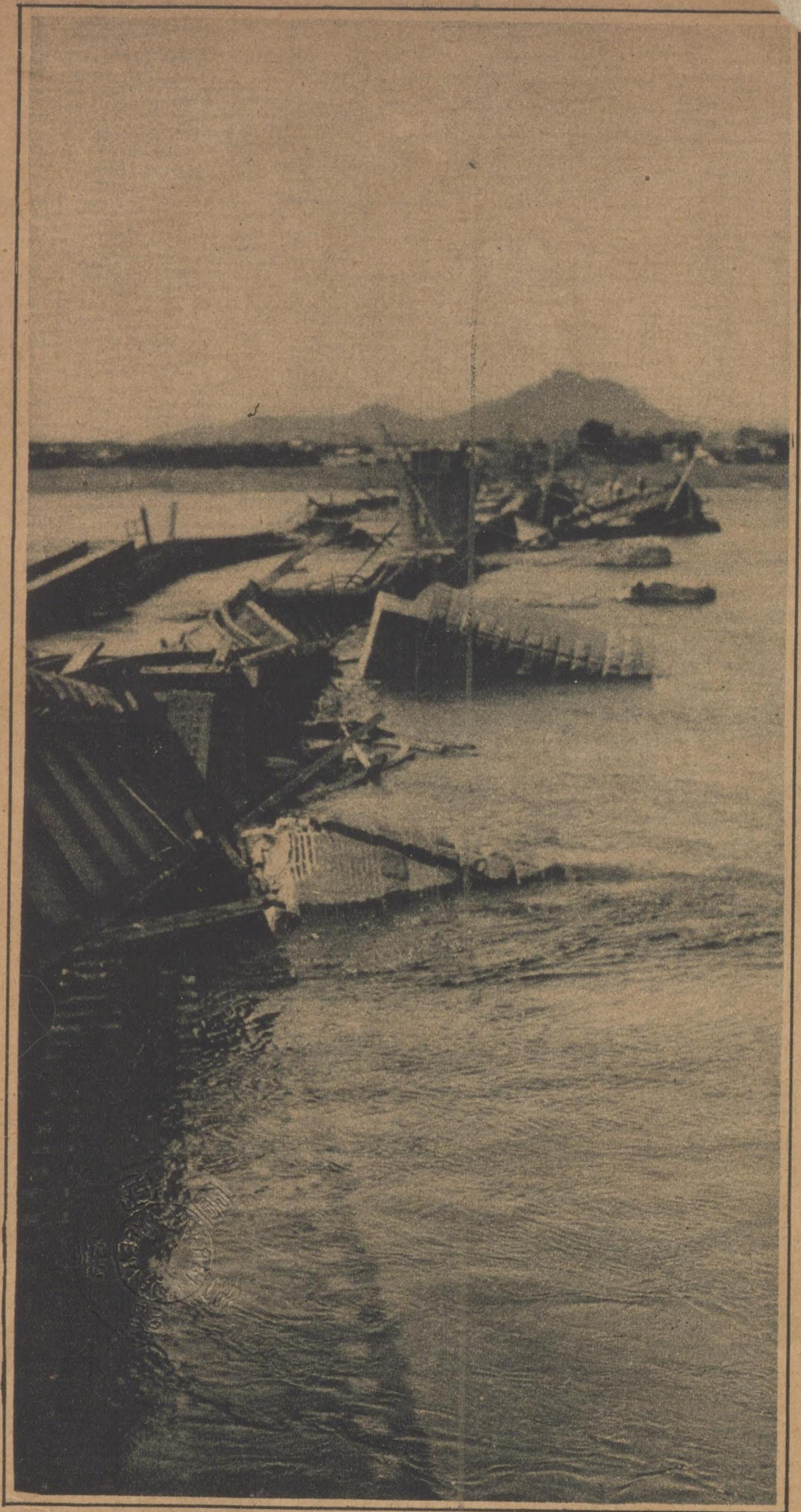
◆ ◇ ◆



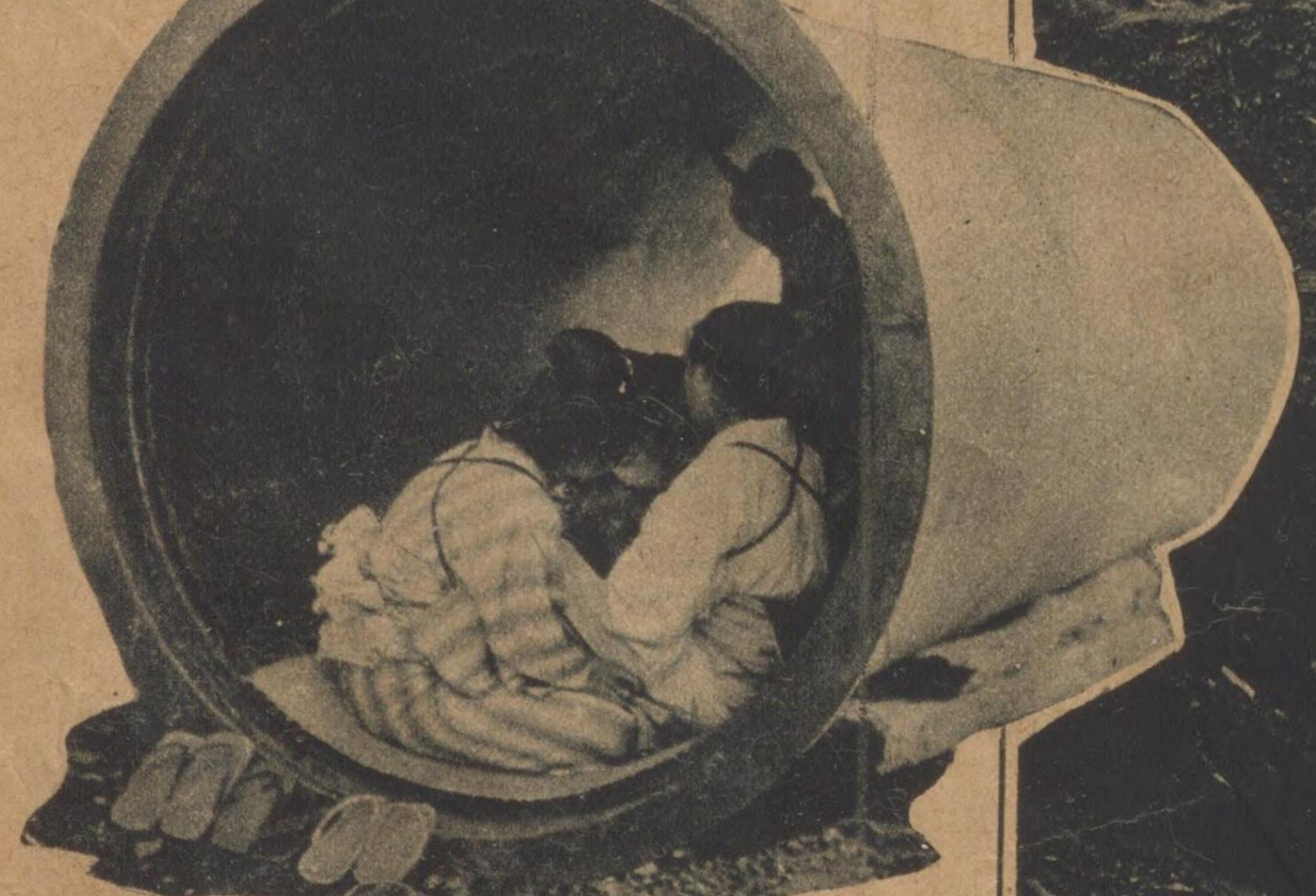
俤も殘らぬ横濱の棧橋



幅をきかす乗合馬車

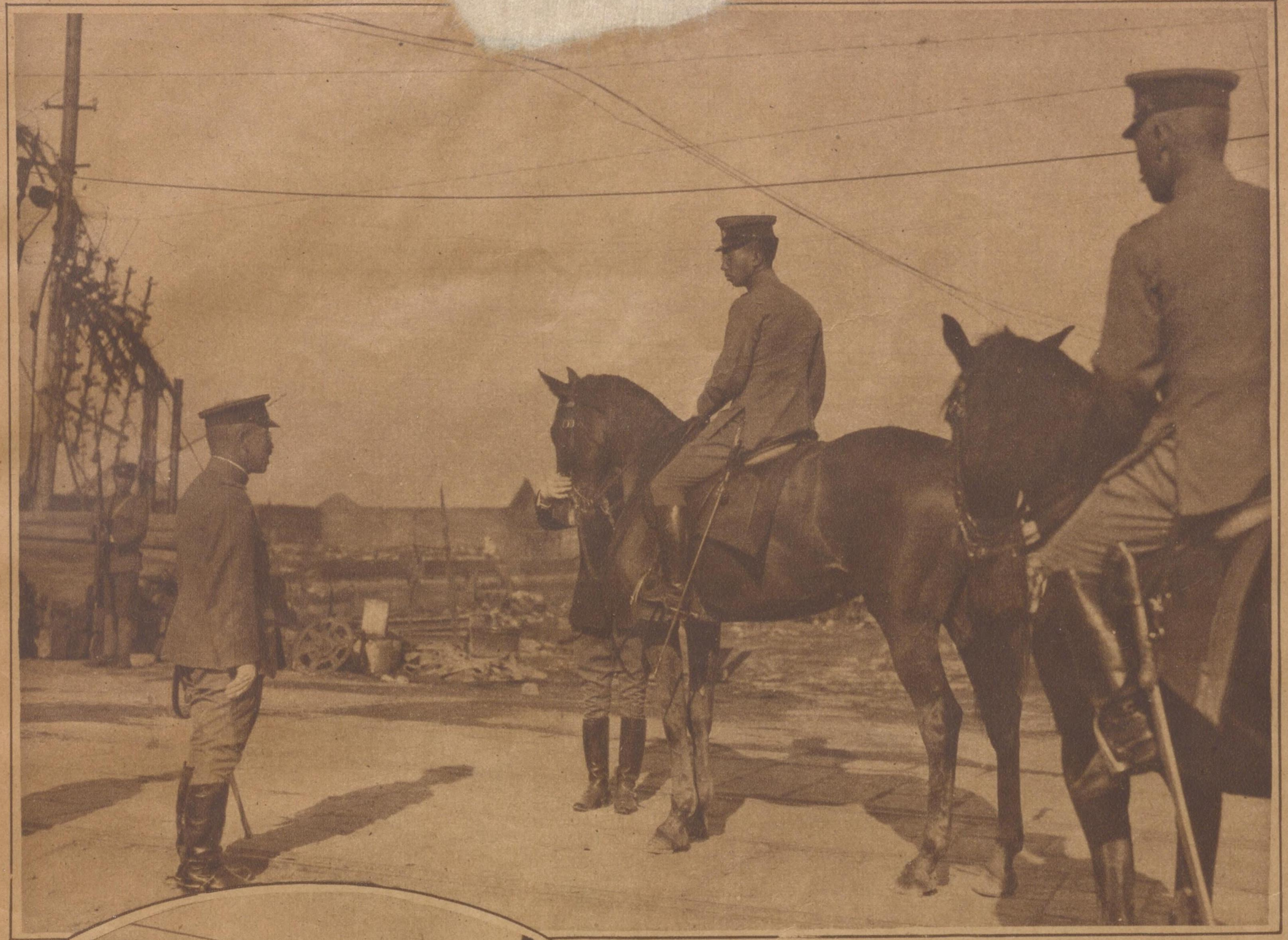


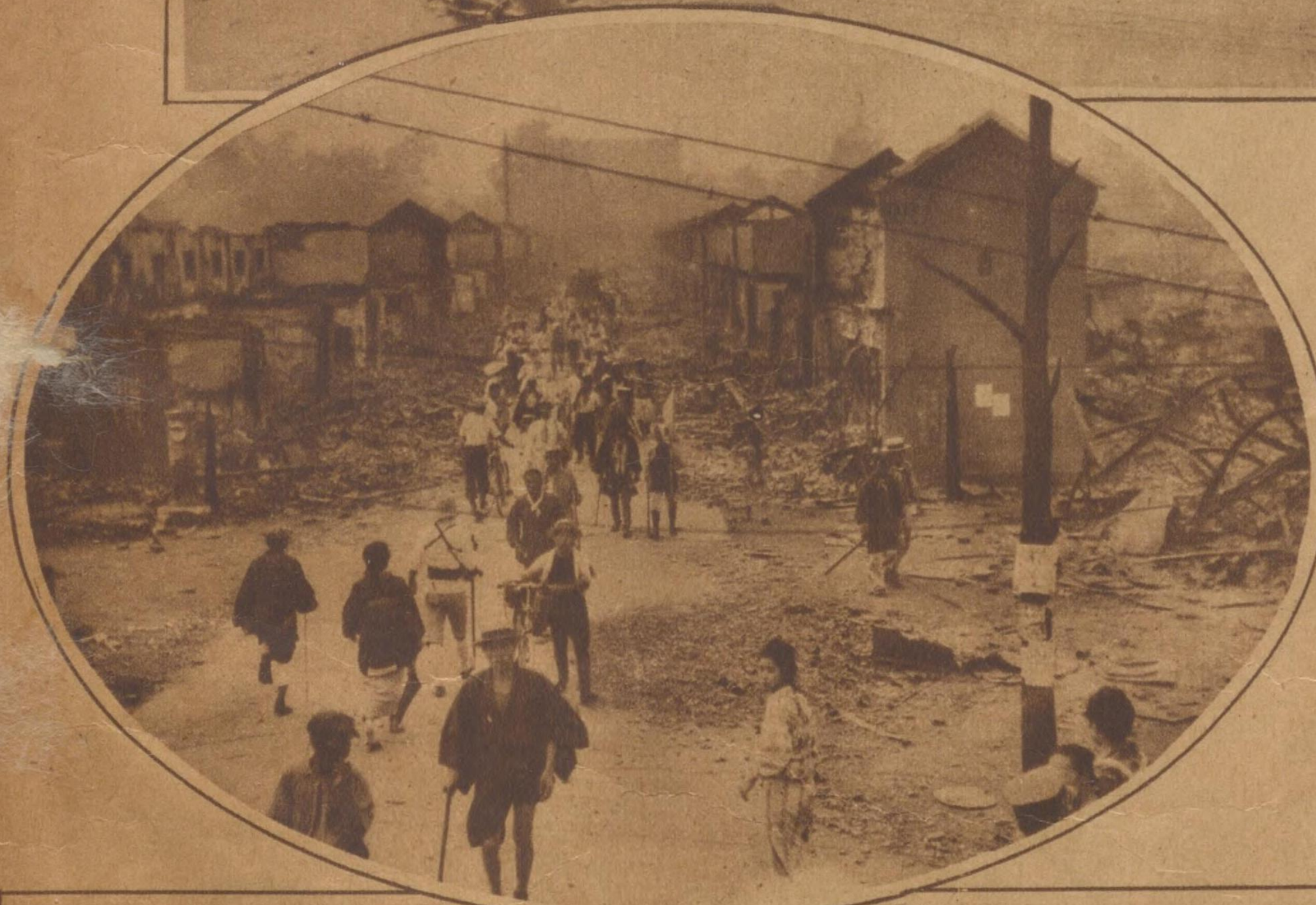
滅茶々々になつた馬入川の鐵橋



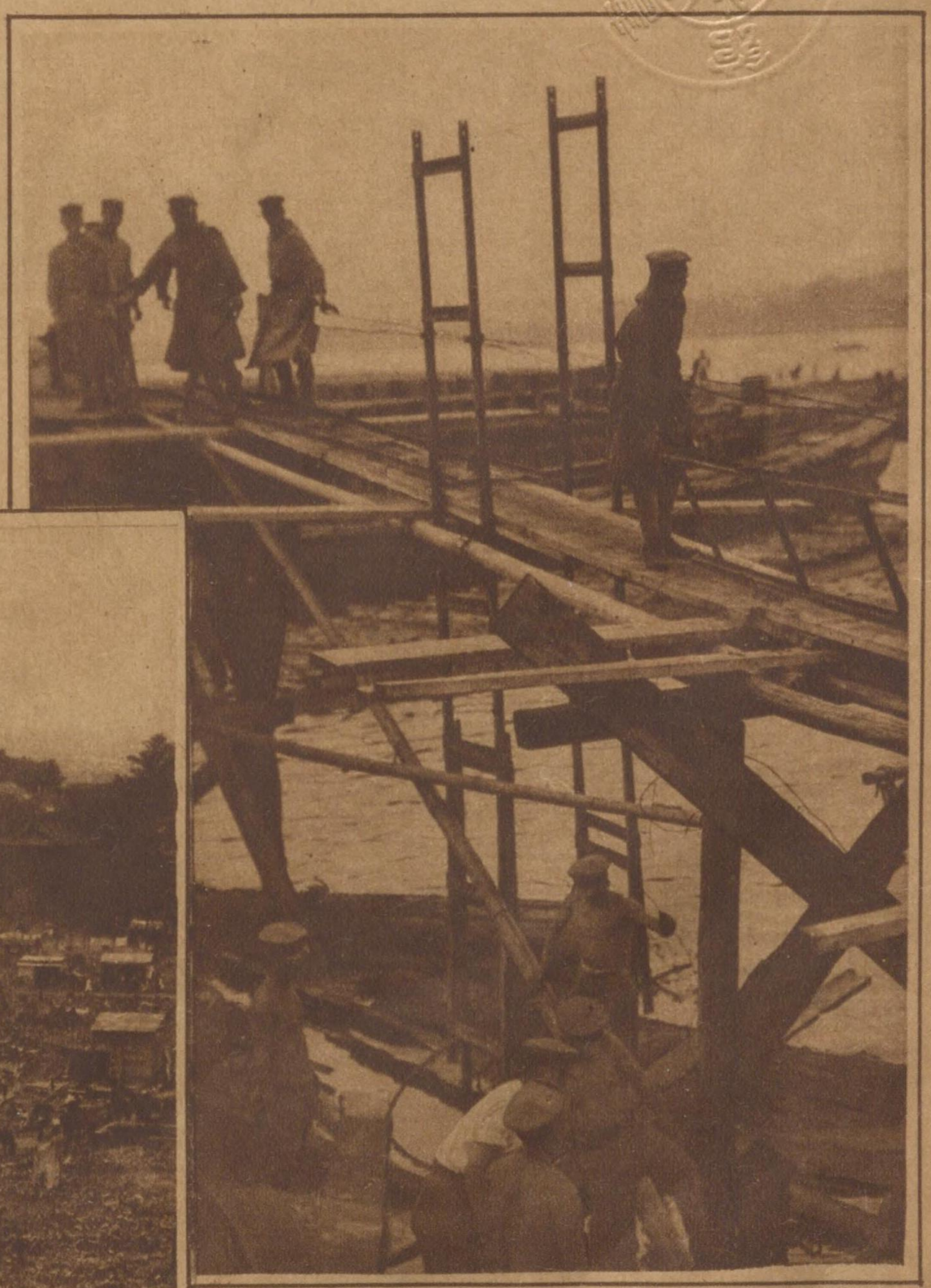
鐵管をすみ家に

焼野に馬を進め給ふ攝政宮殿下

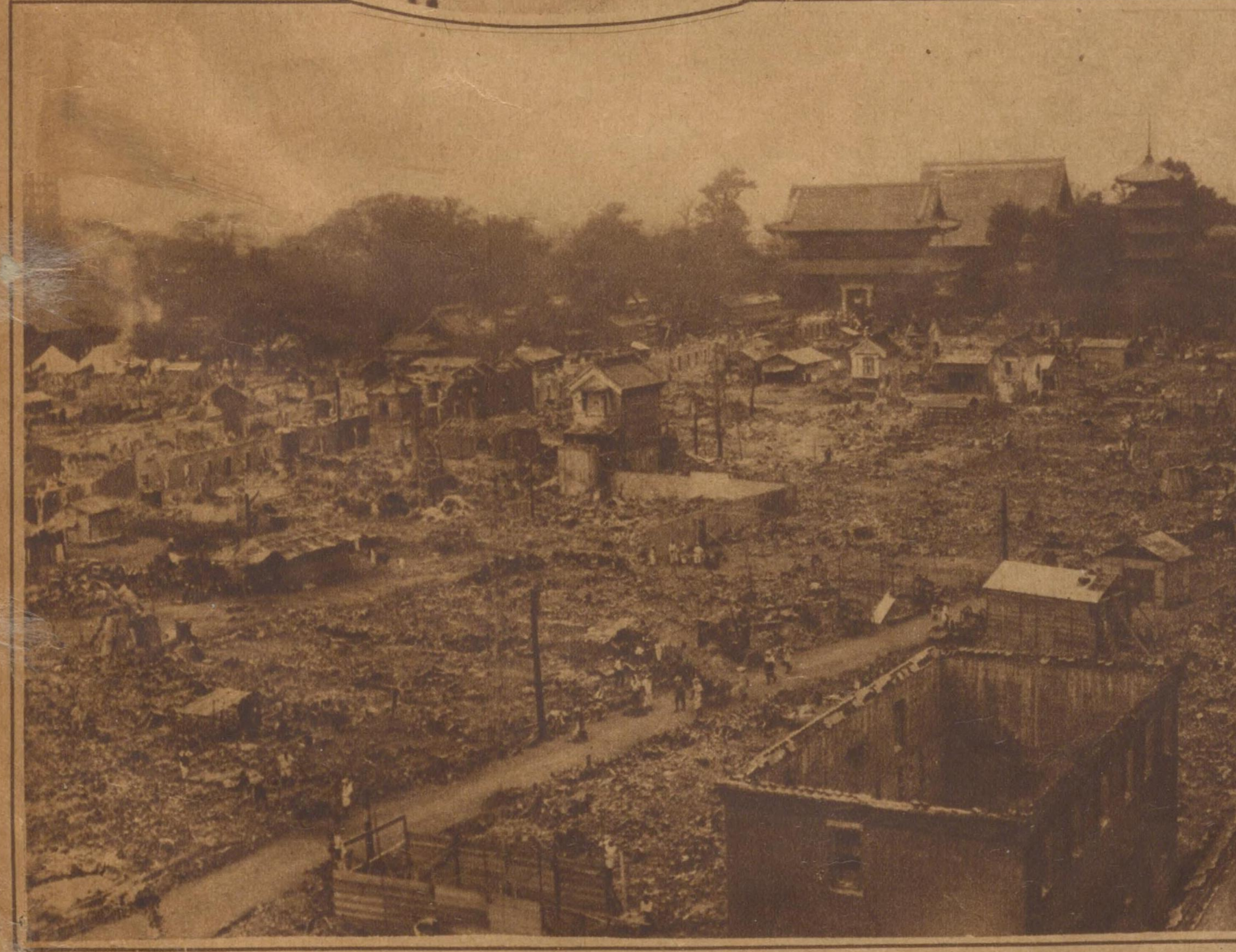


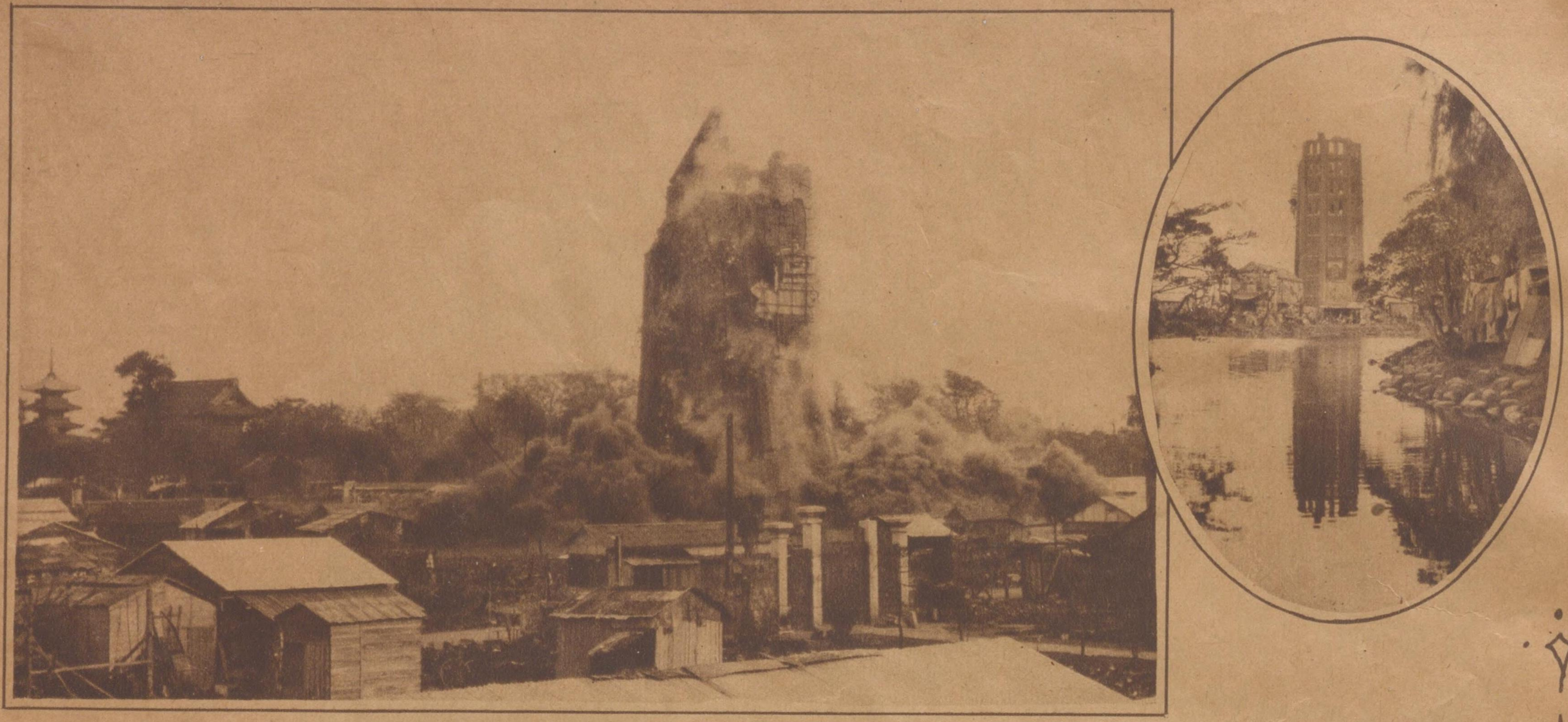


見るかげもない淺草仲見世（上）と
御利益あらたかに燒殘つた觀世音（下）

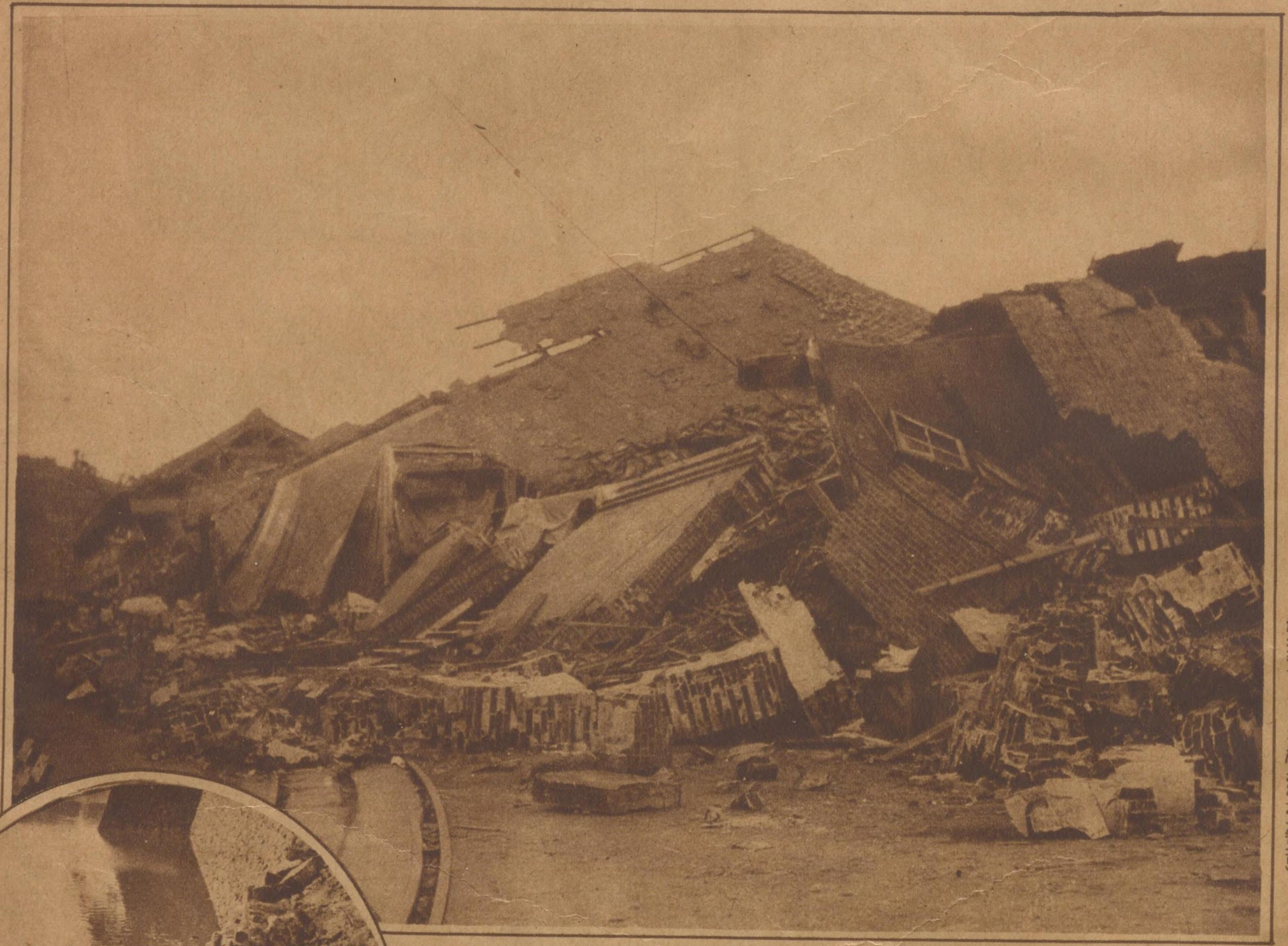


工兵隊の架橋工事

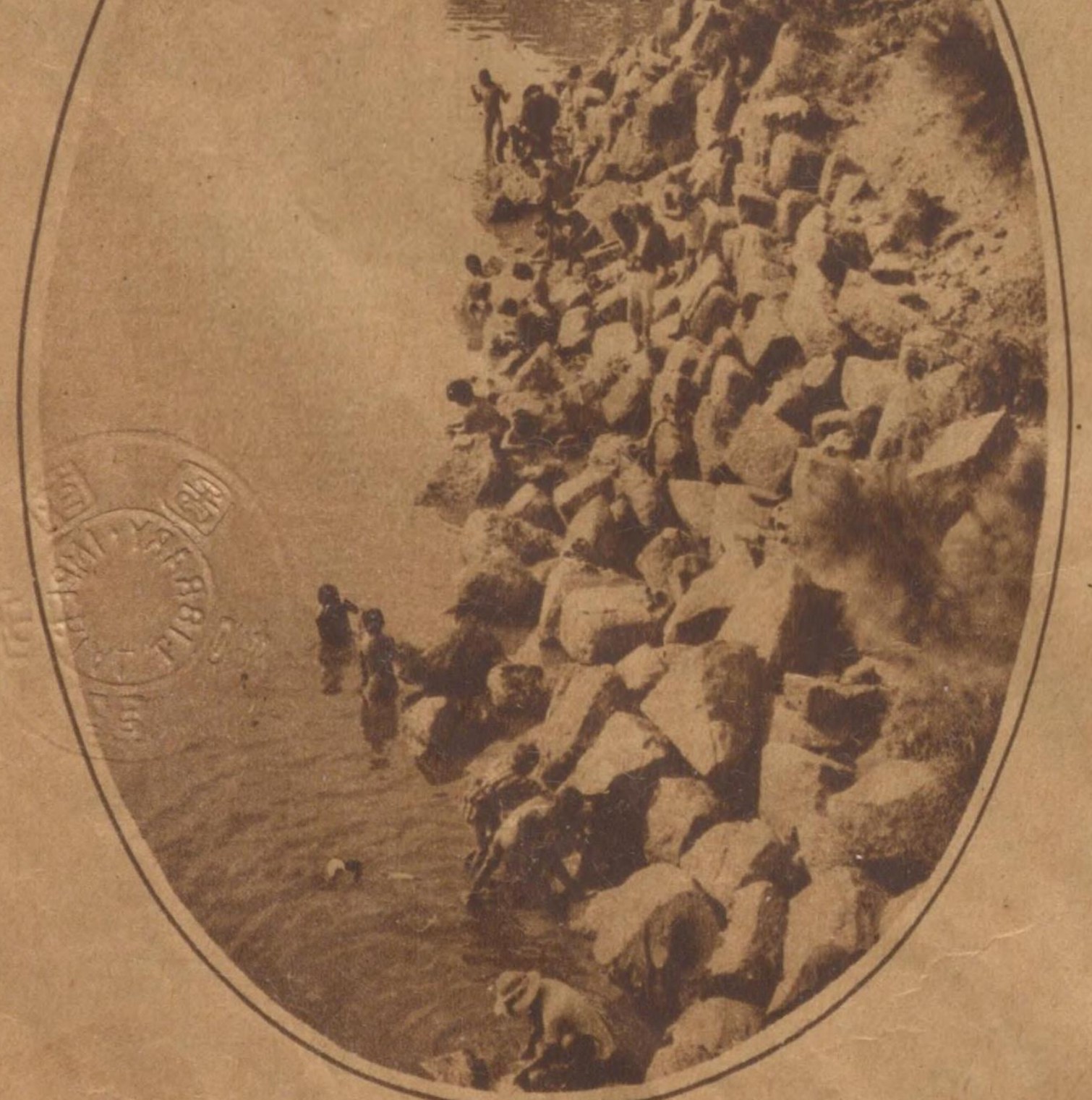




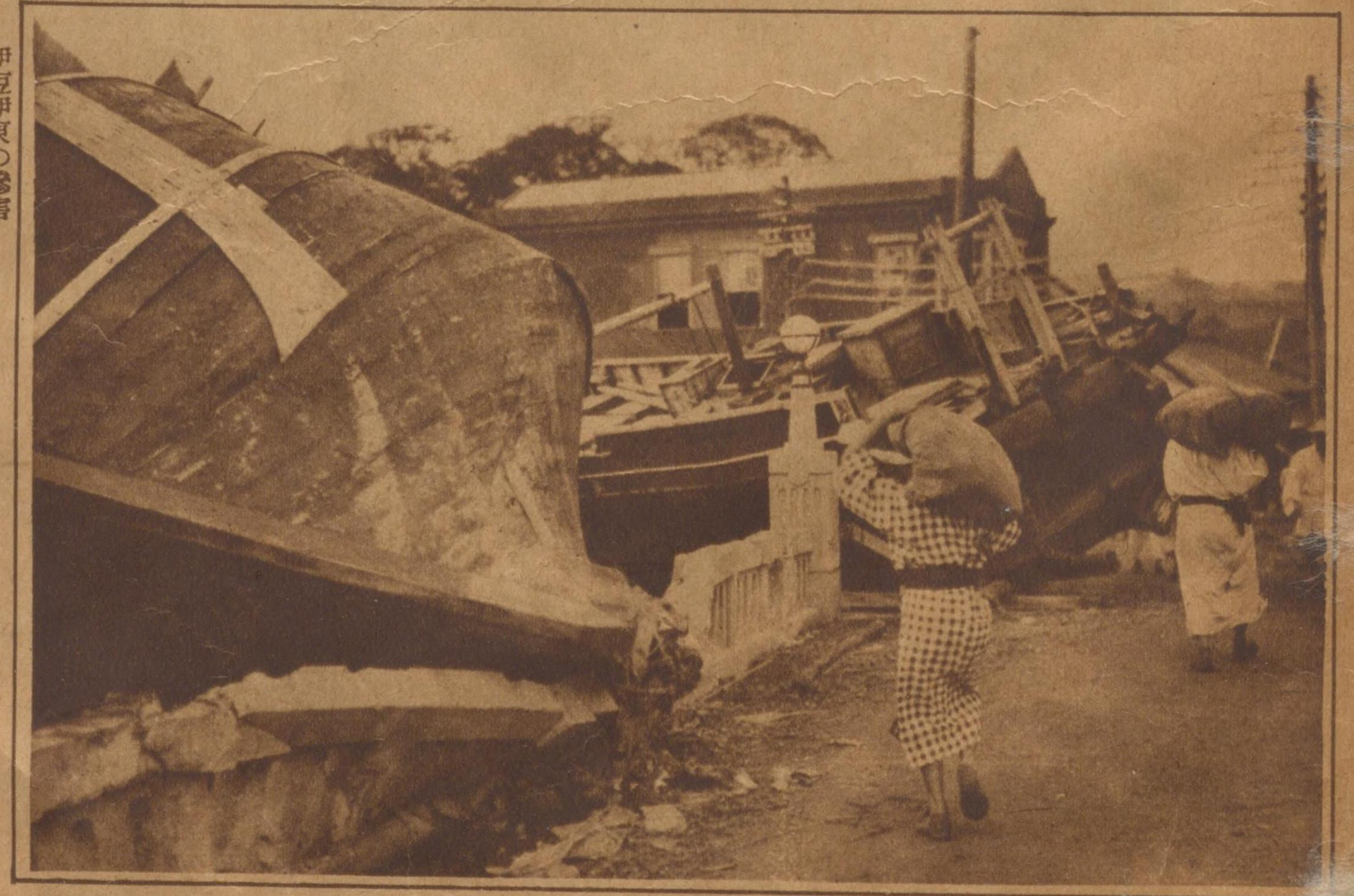
失はれた十二階＝右は地震のため八階から折れたところ、左は爆發の刹那



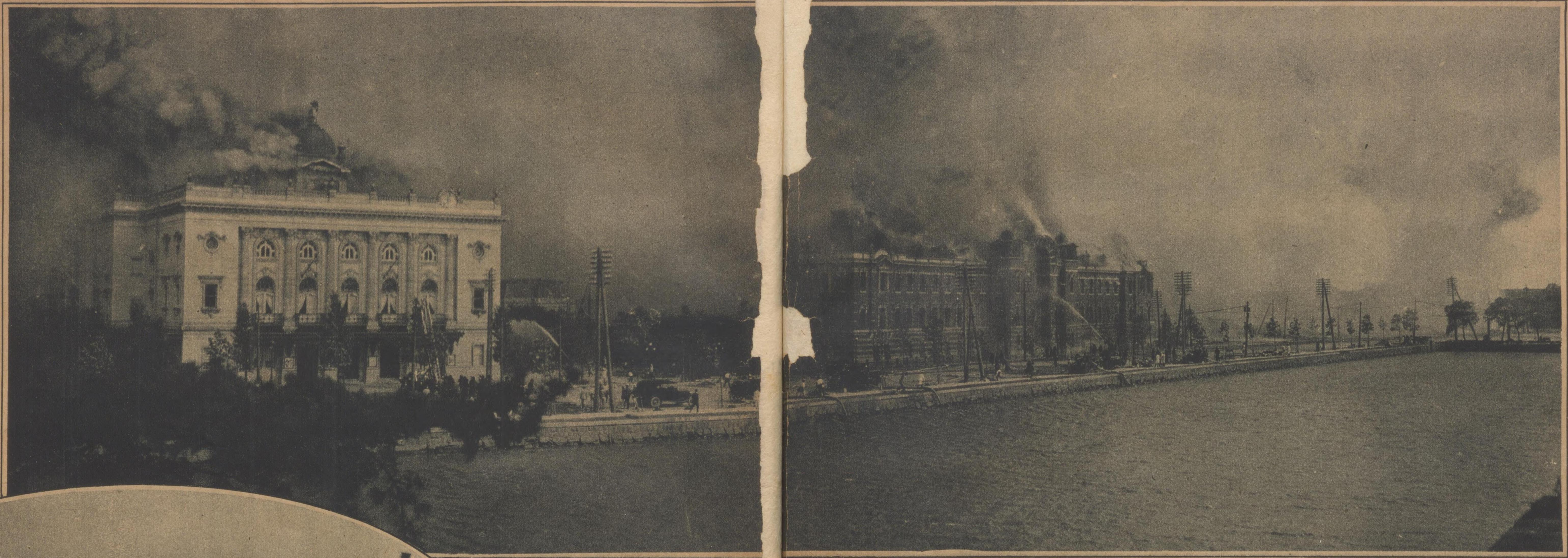
横須賀もこの有樣（海軍軍需部）



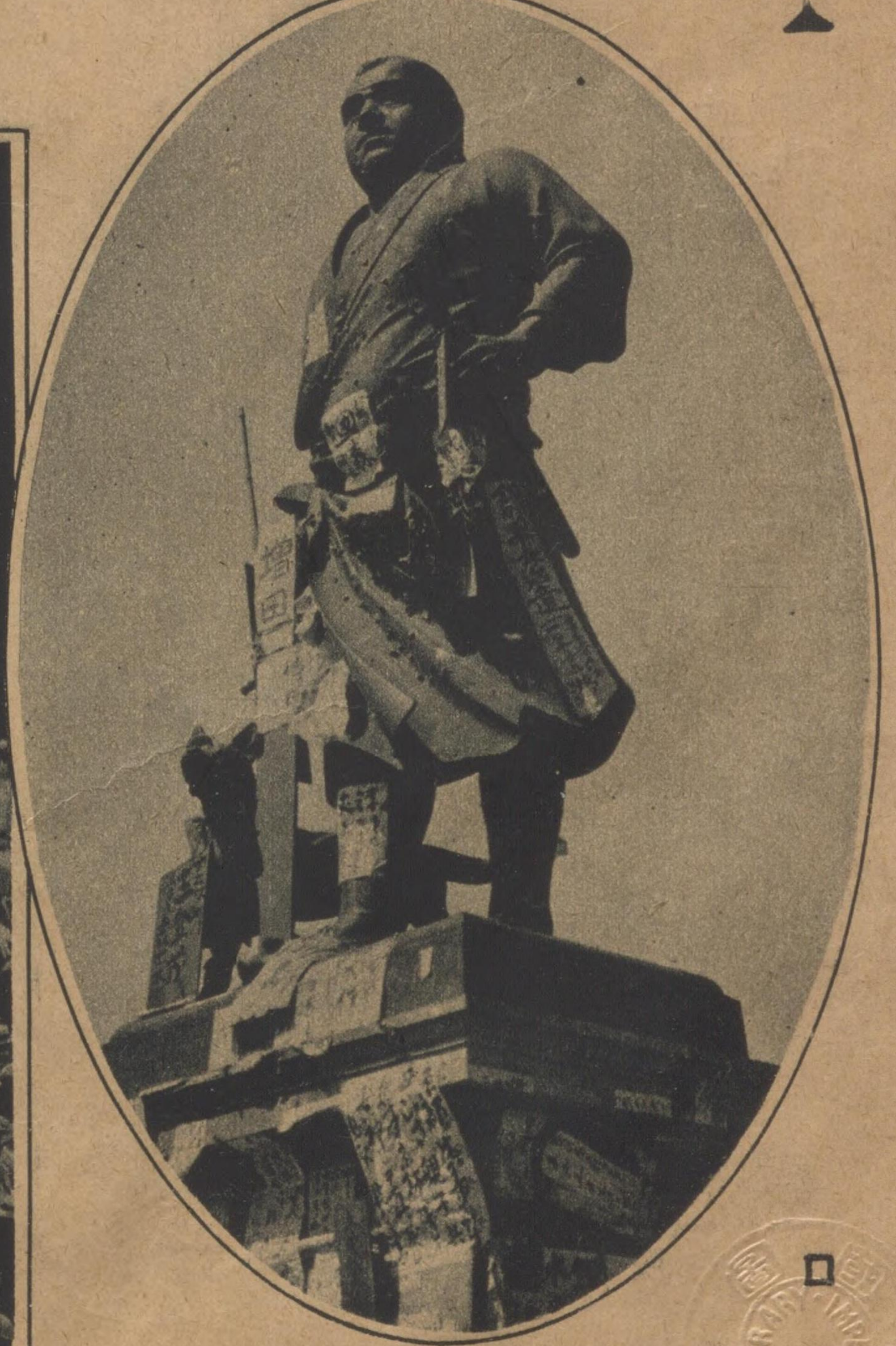
帝劇前お濠の水浴



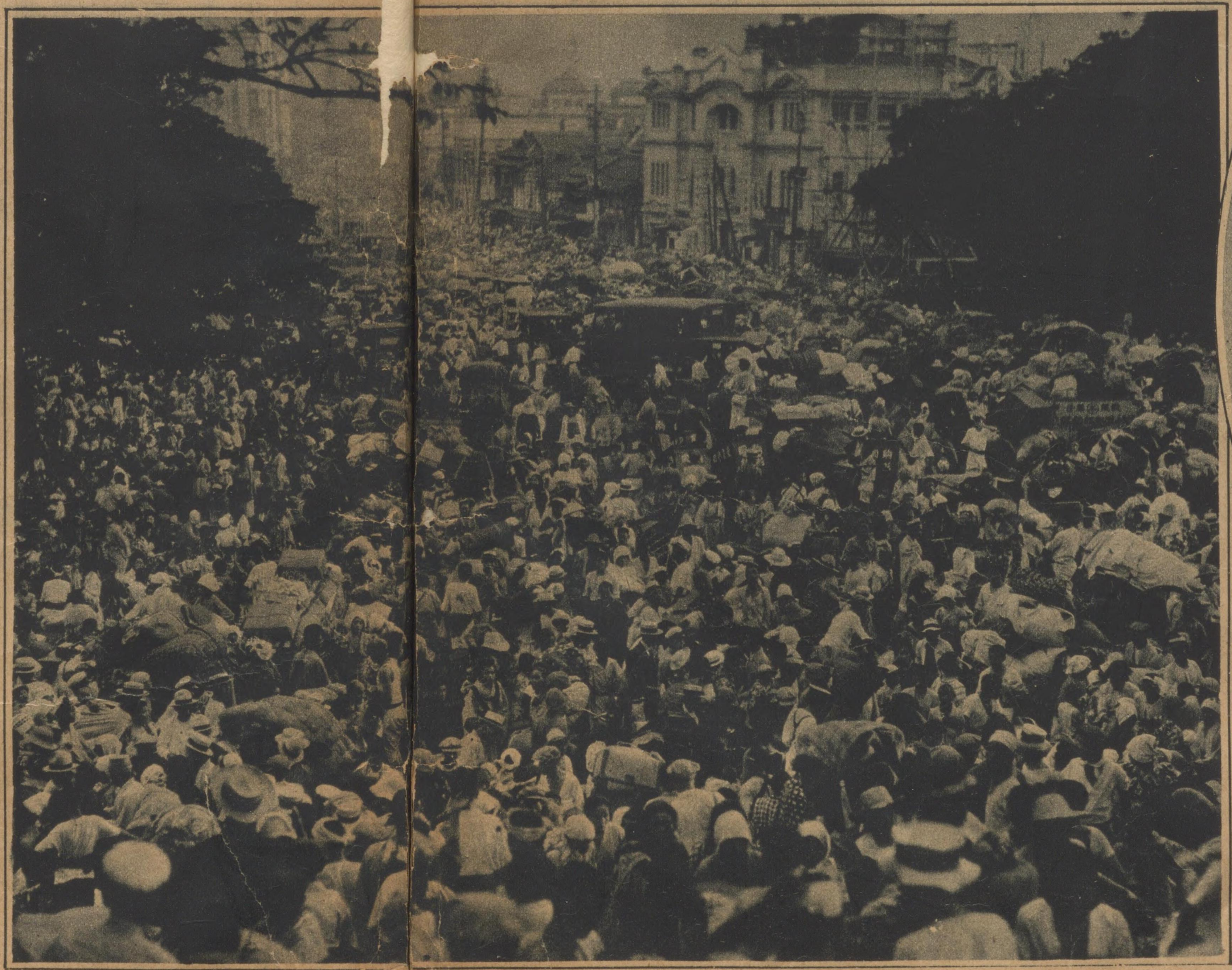
伊豆伊東の慘害



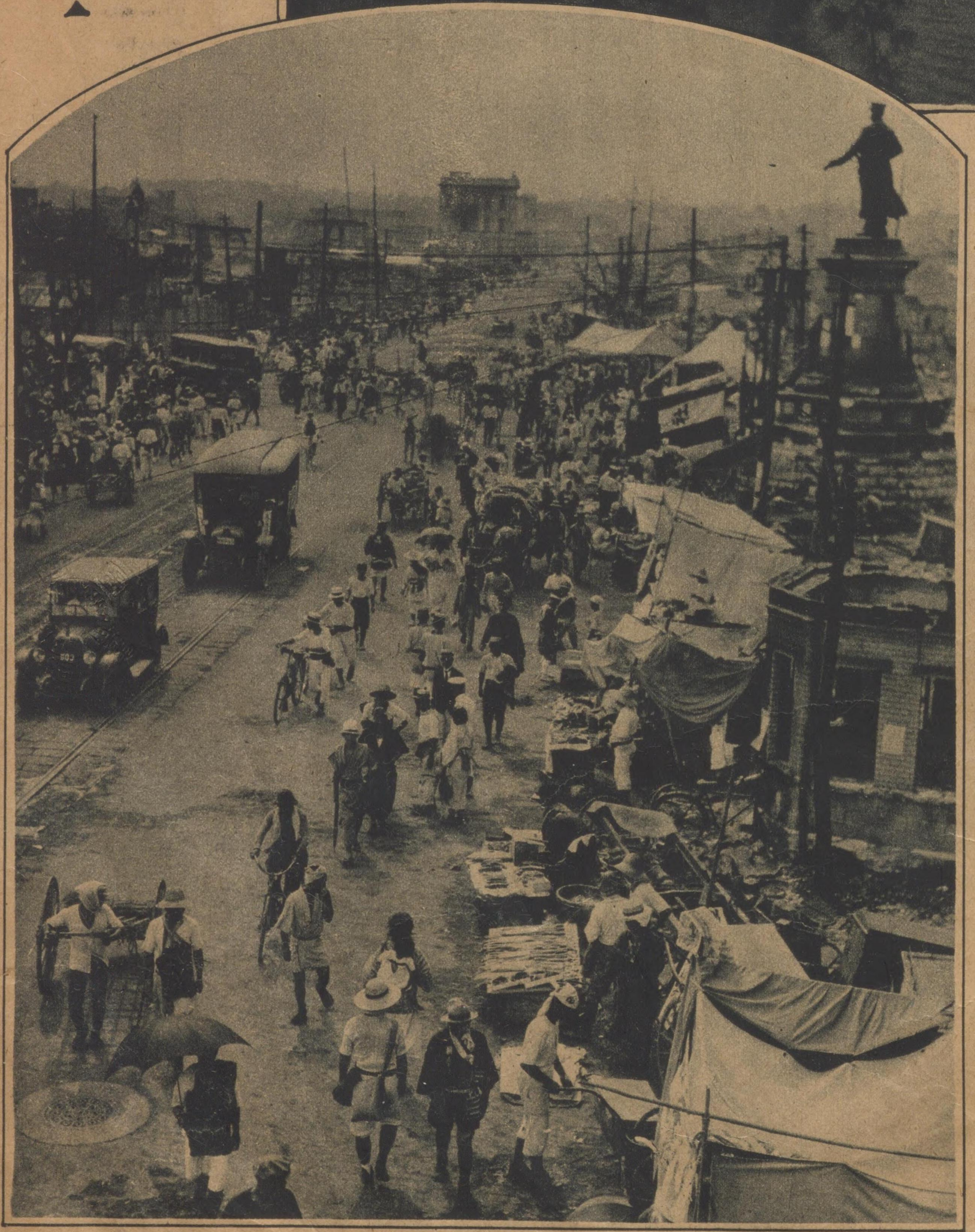
燒けつゝある帝劇と警視廳



日頃紙つぶての攻撃に手を燒いて居た西郷ドン…今度は罹災者安否の消息塔で所きらはずのこうやく貼り、さすがの豪傑も驚いたらしい

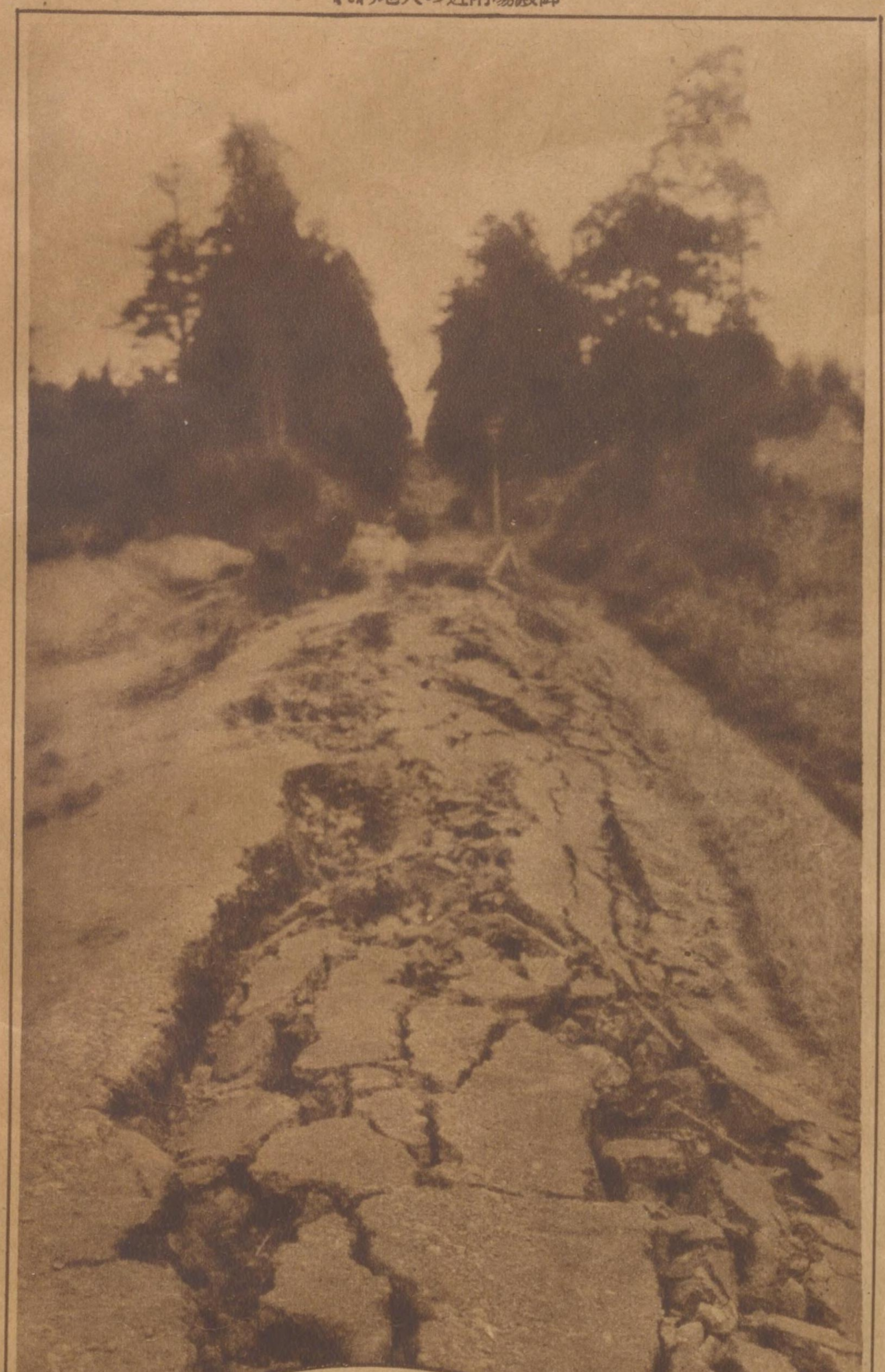


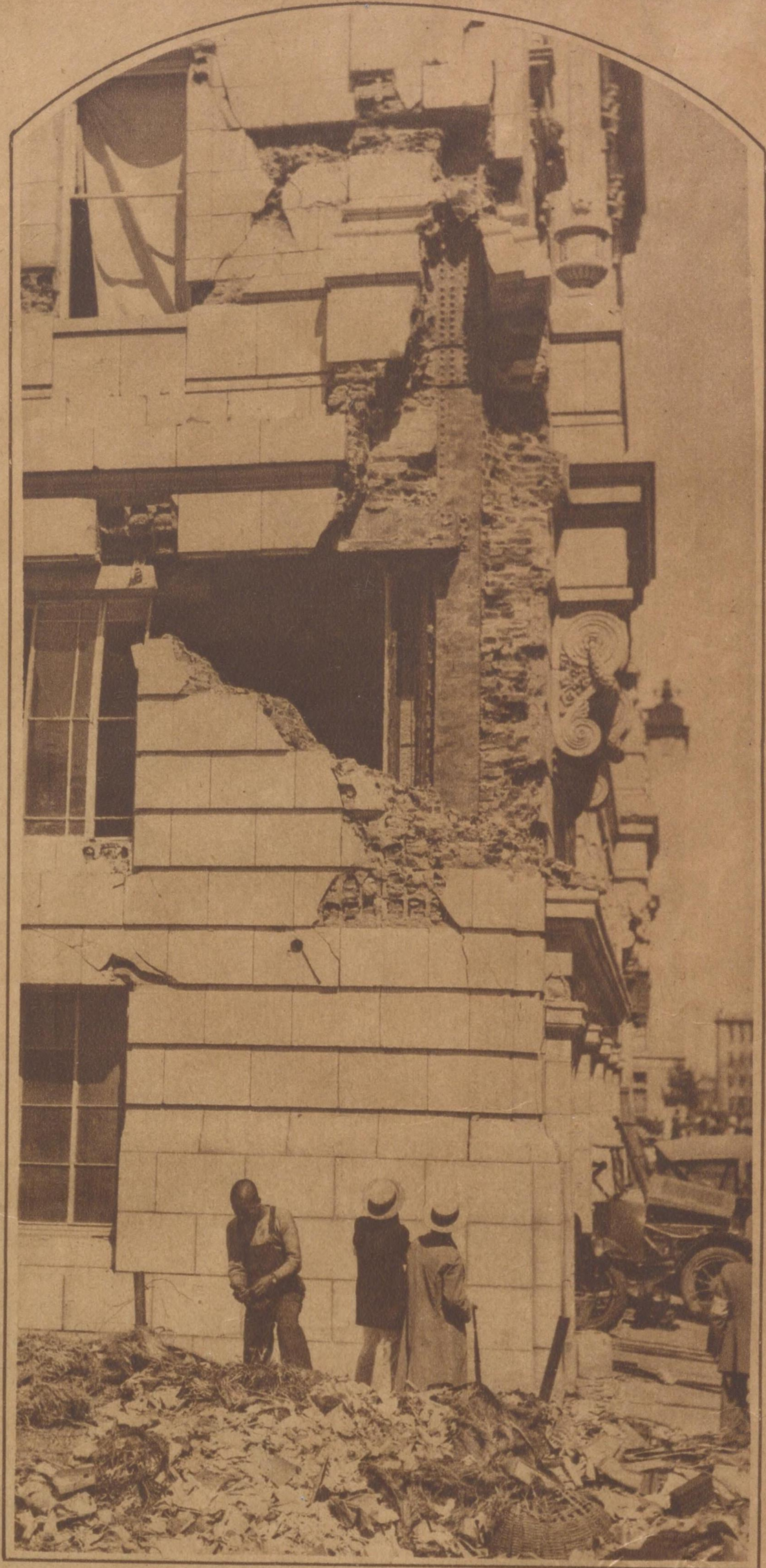
上野をさして逃げ惑ふ避難民



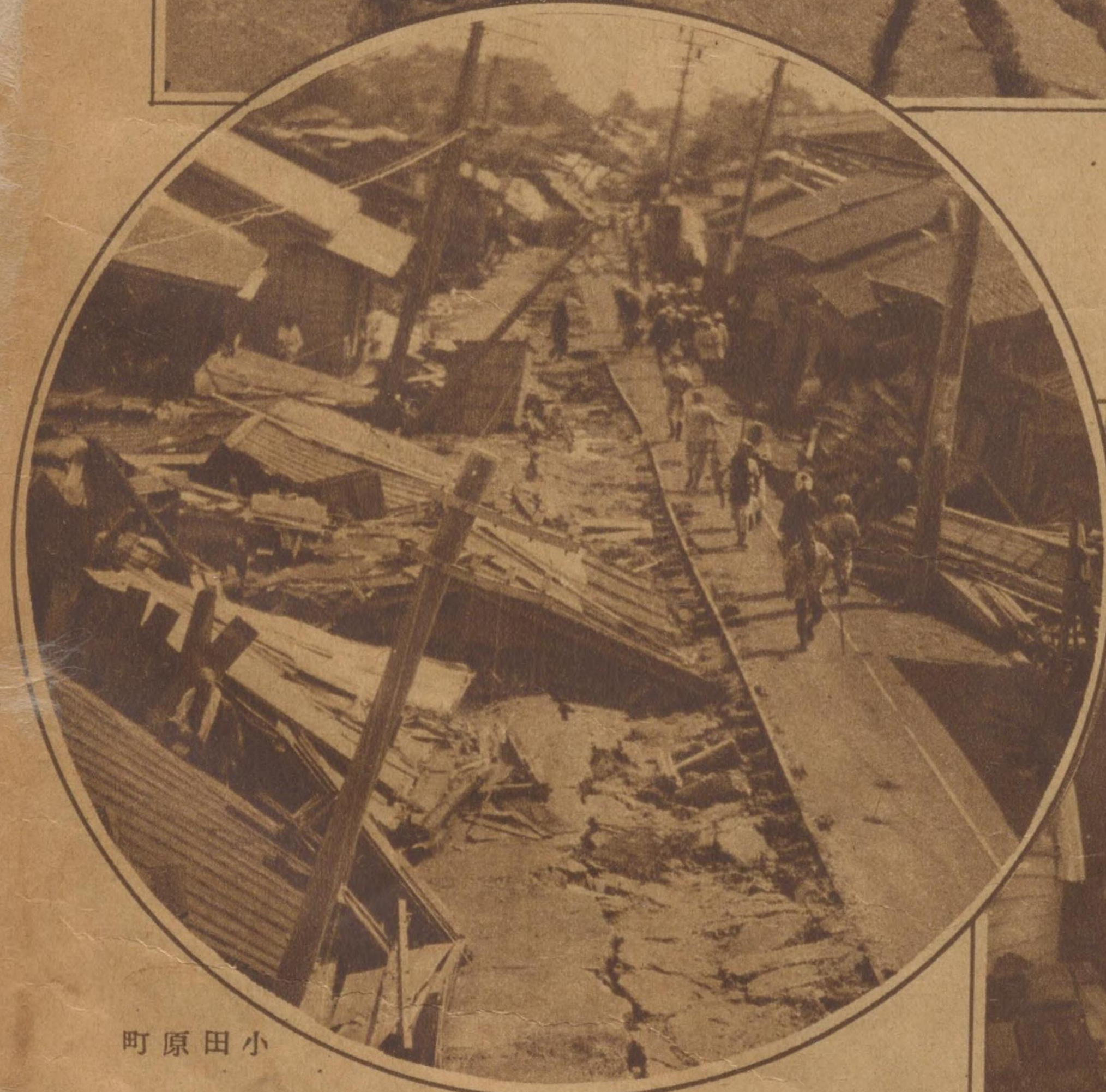
相變らず賑かな須田町附近

御殿場附近の大地っわれ

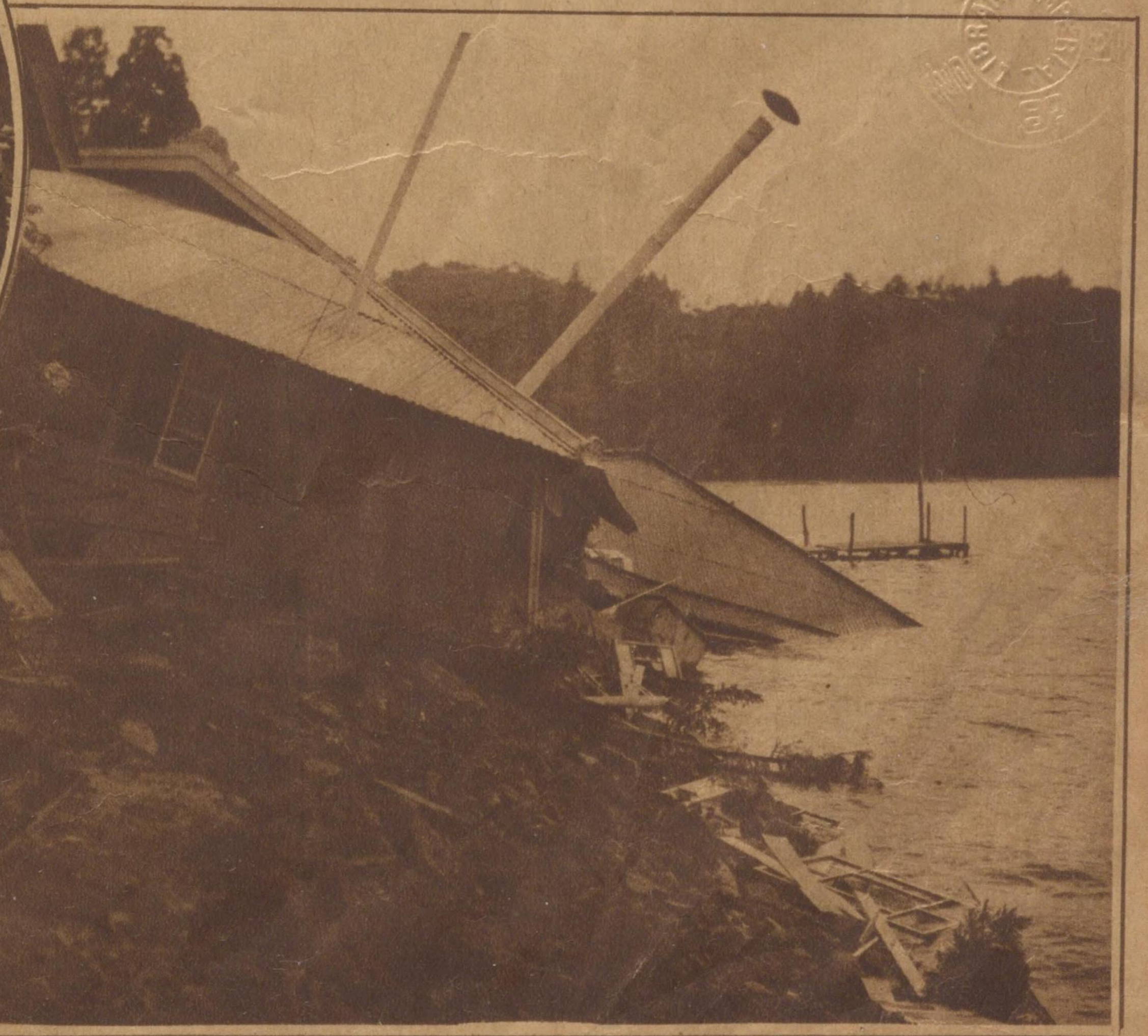




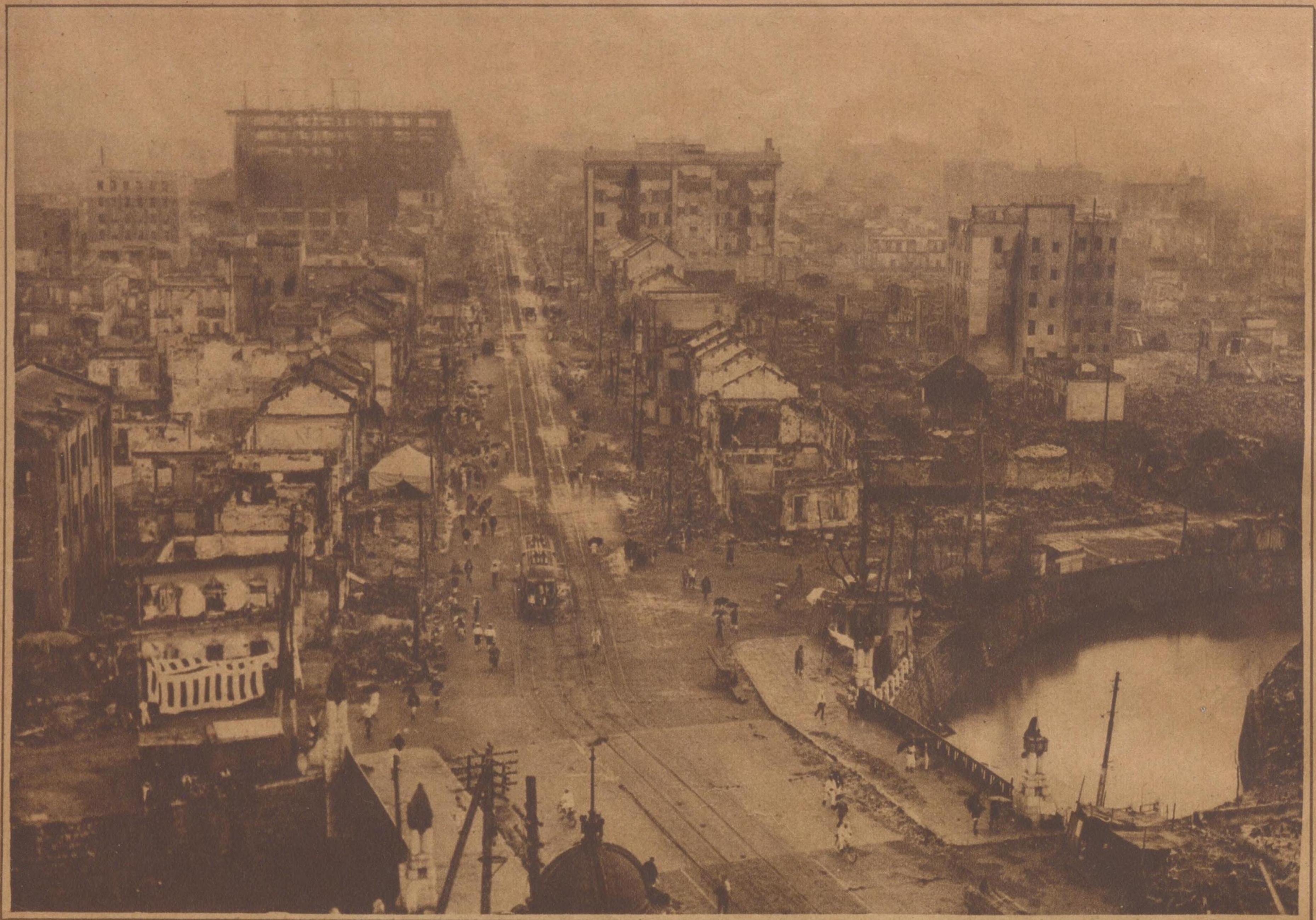
慘害の恐ろしさを物語る郵船ビルの一角



小田原町

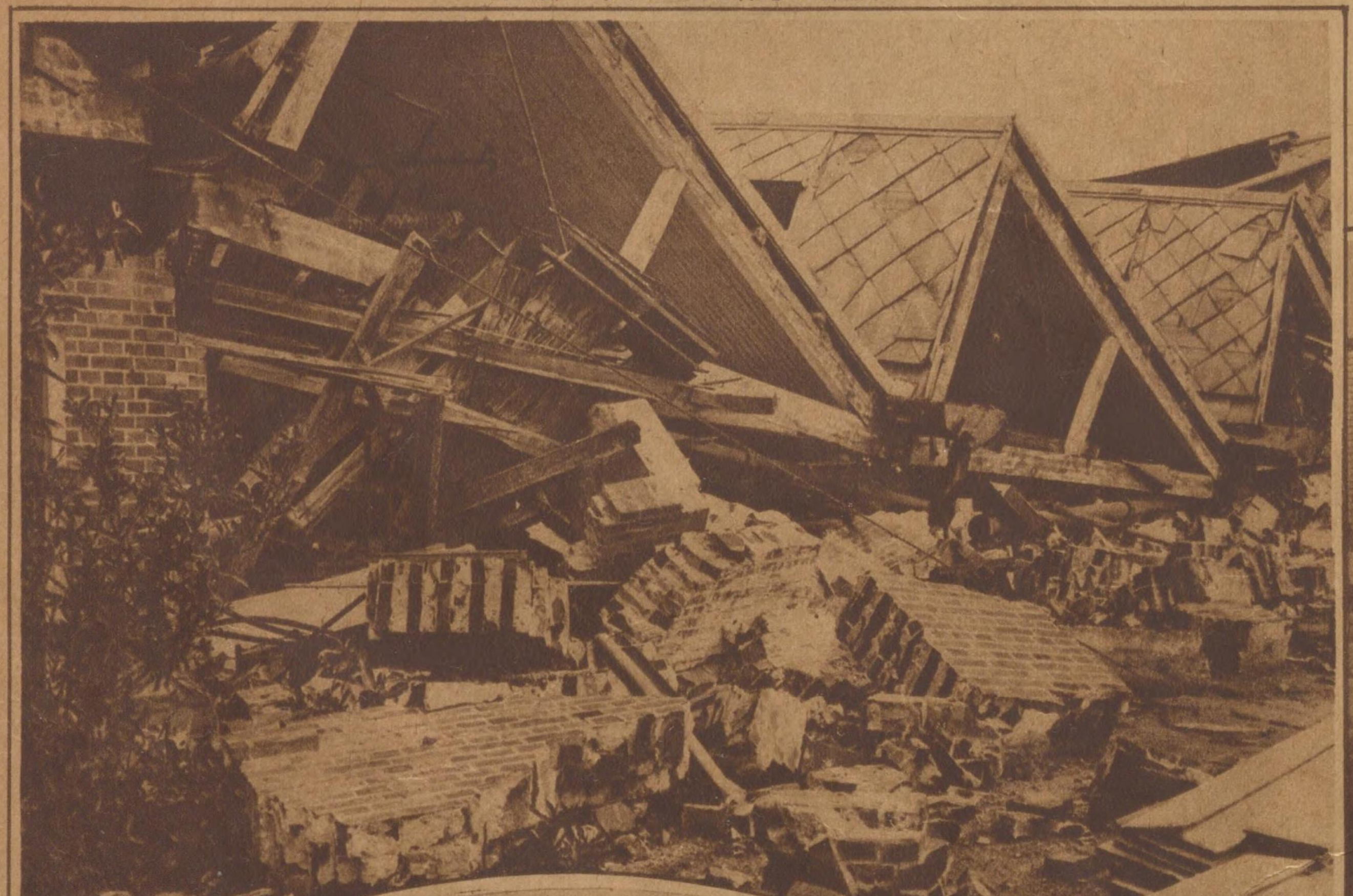


蘆の湖中に倒壞した富士見ホテル（箱根）

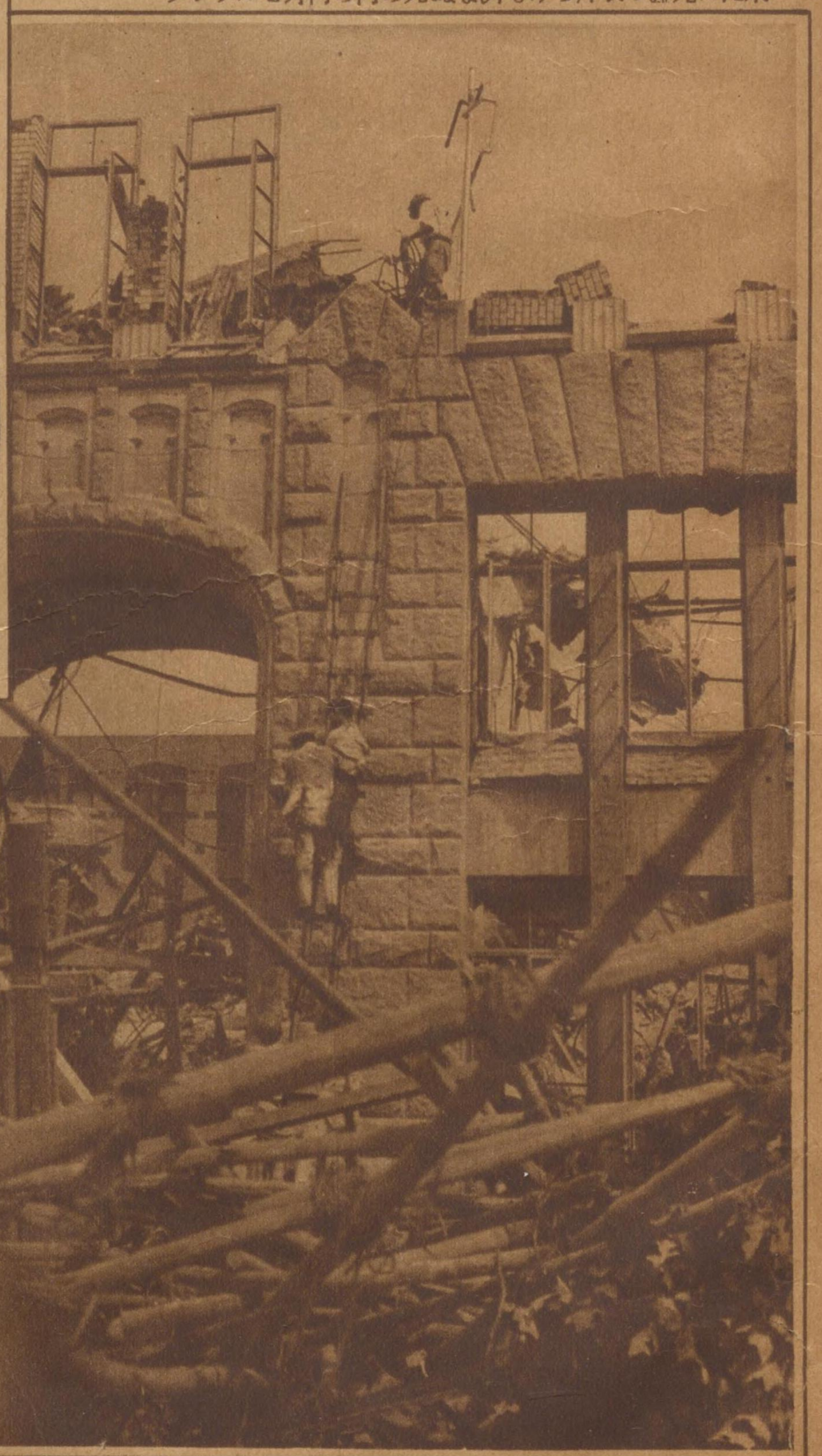


廢墟のやうな銀座街

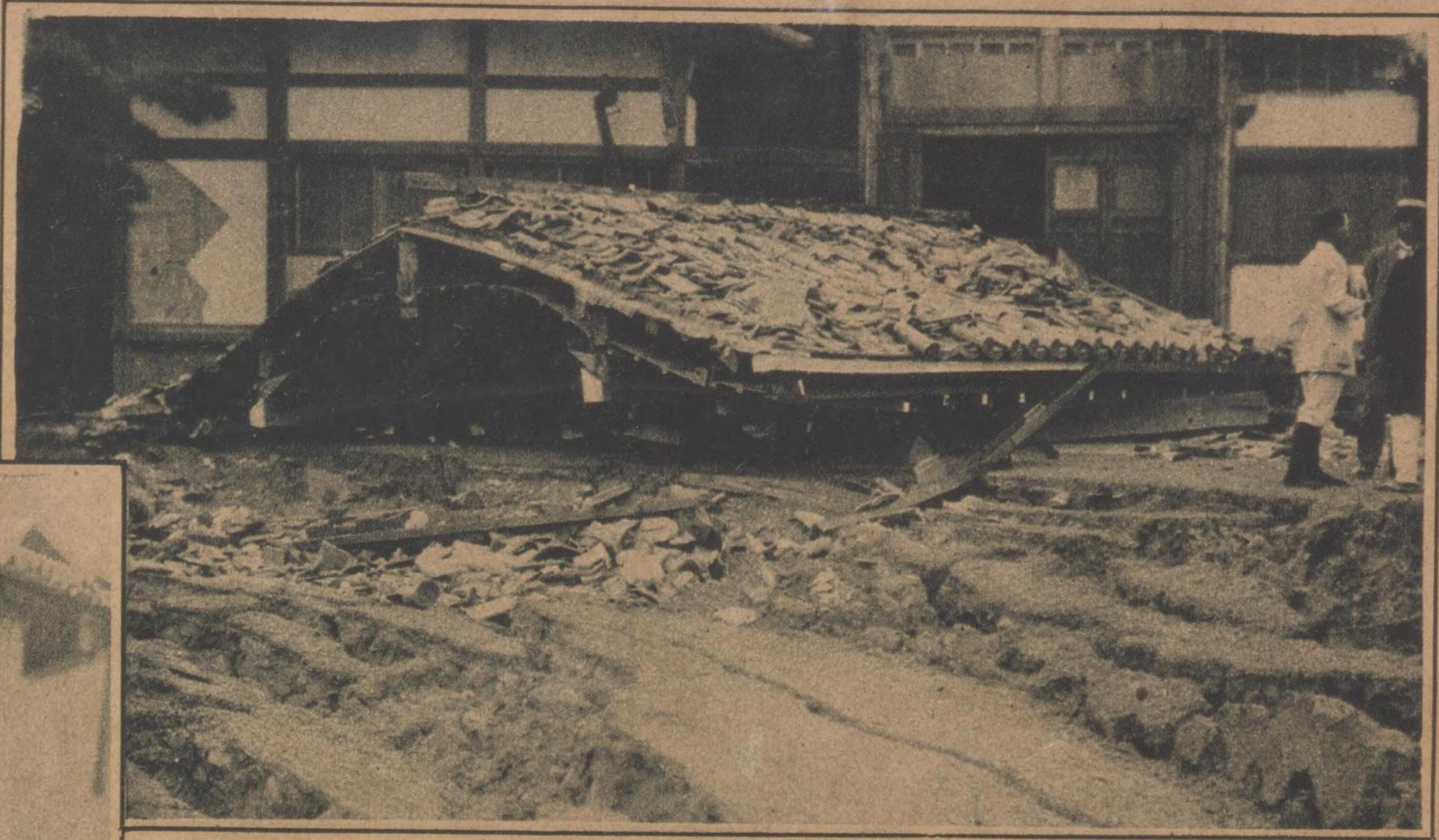
數百名の死者を出した川崎の富士紡



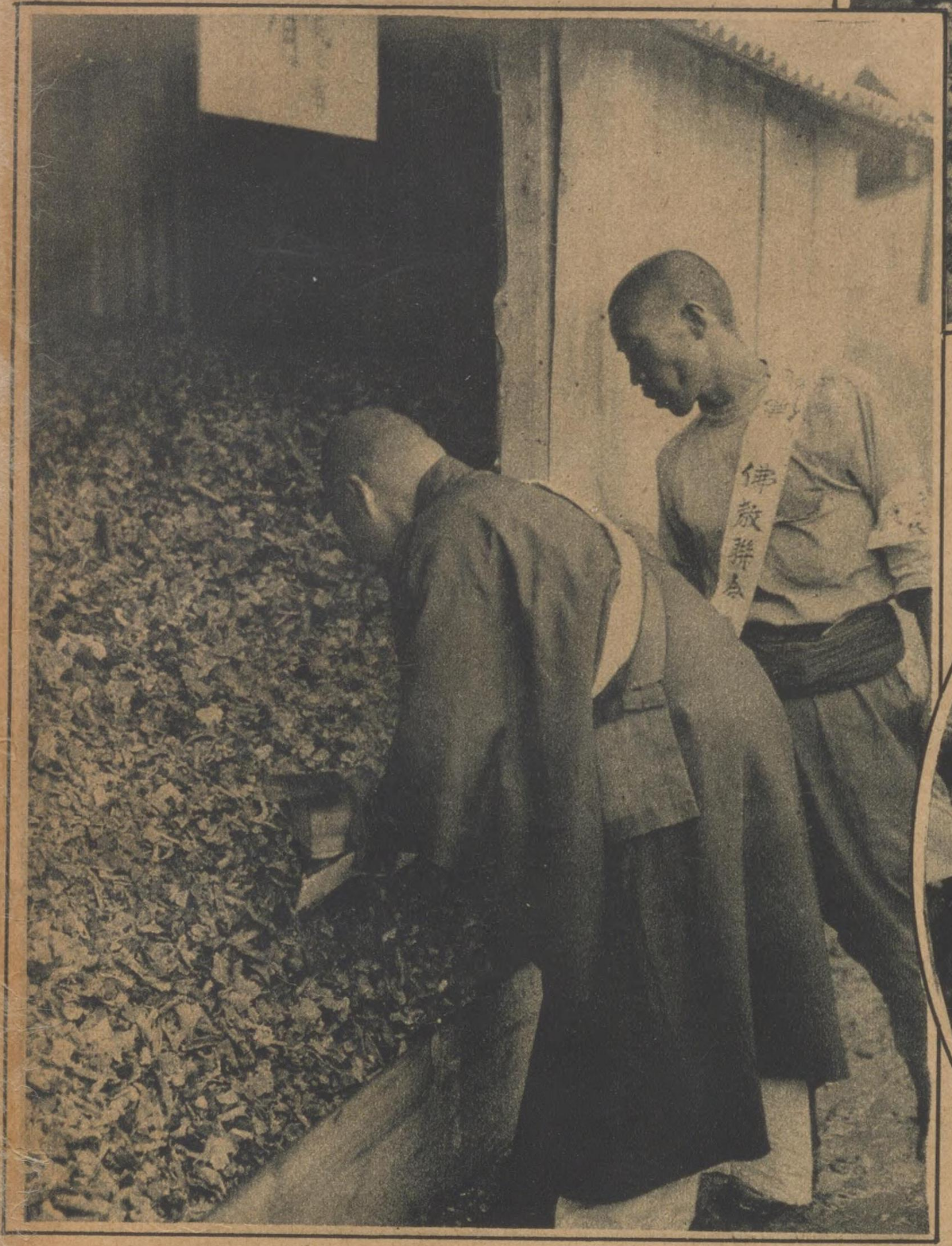
未だに死體の取片づけも濟まぬ丸の内の内外ビルヂング



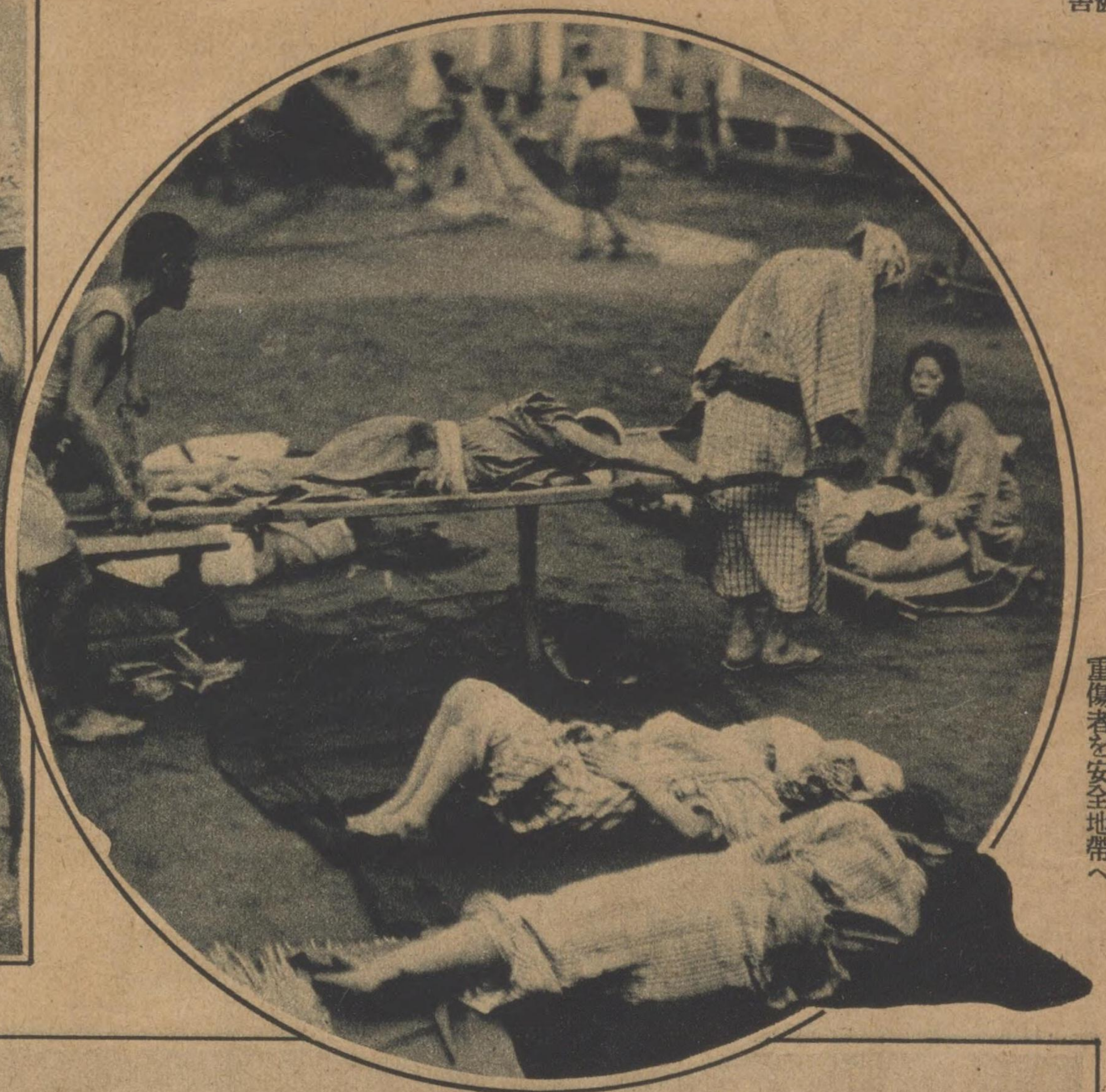
館山の震害を視察する山縣侍從



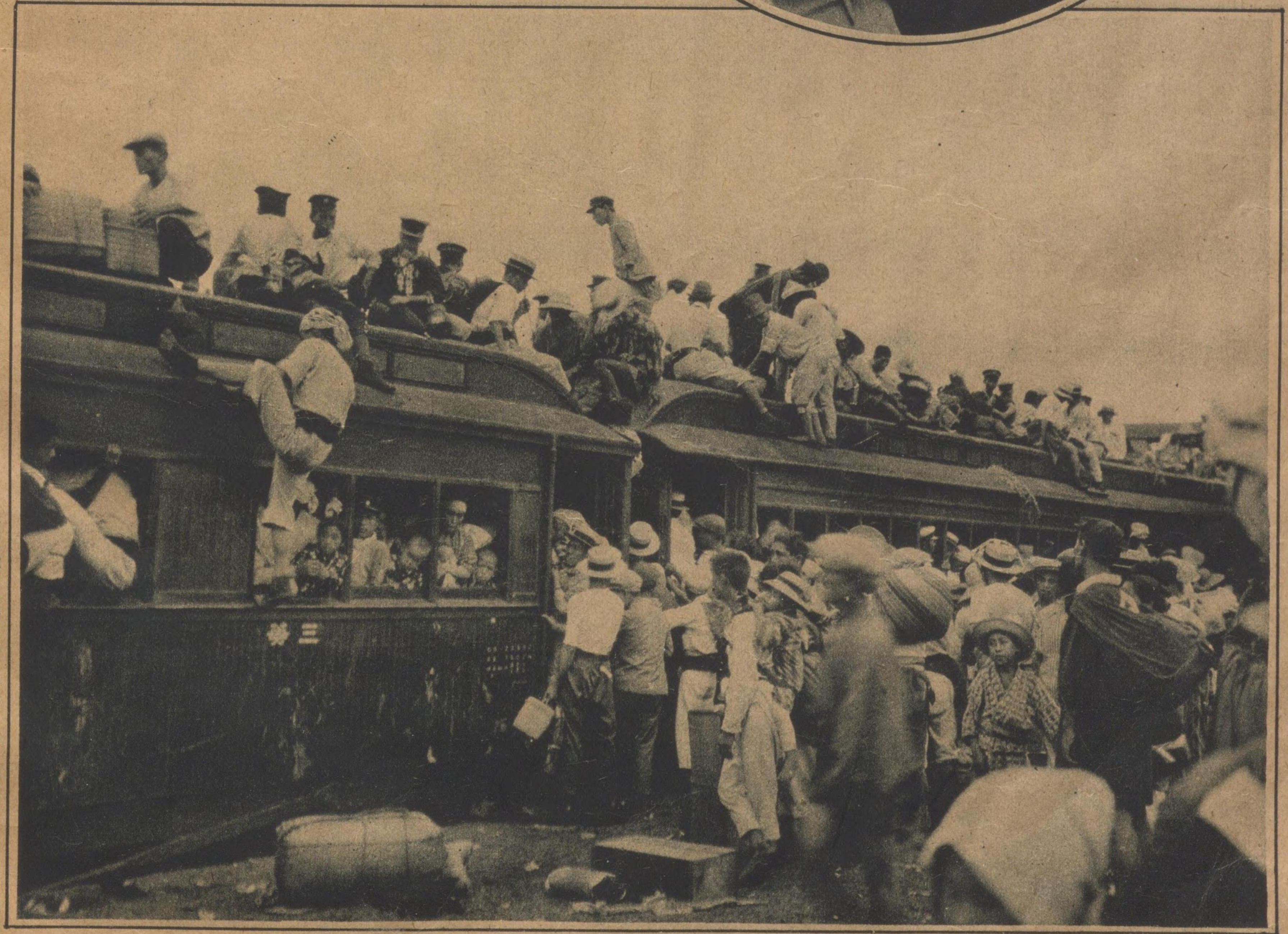
葉山御用邸の被害



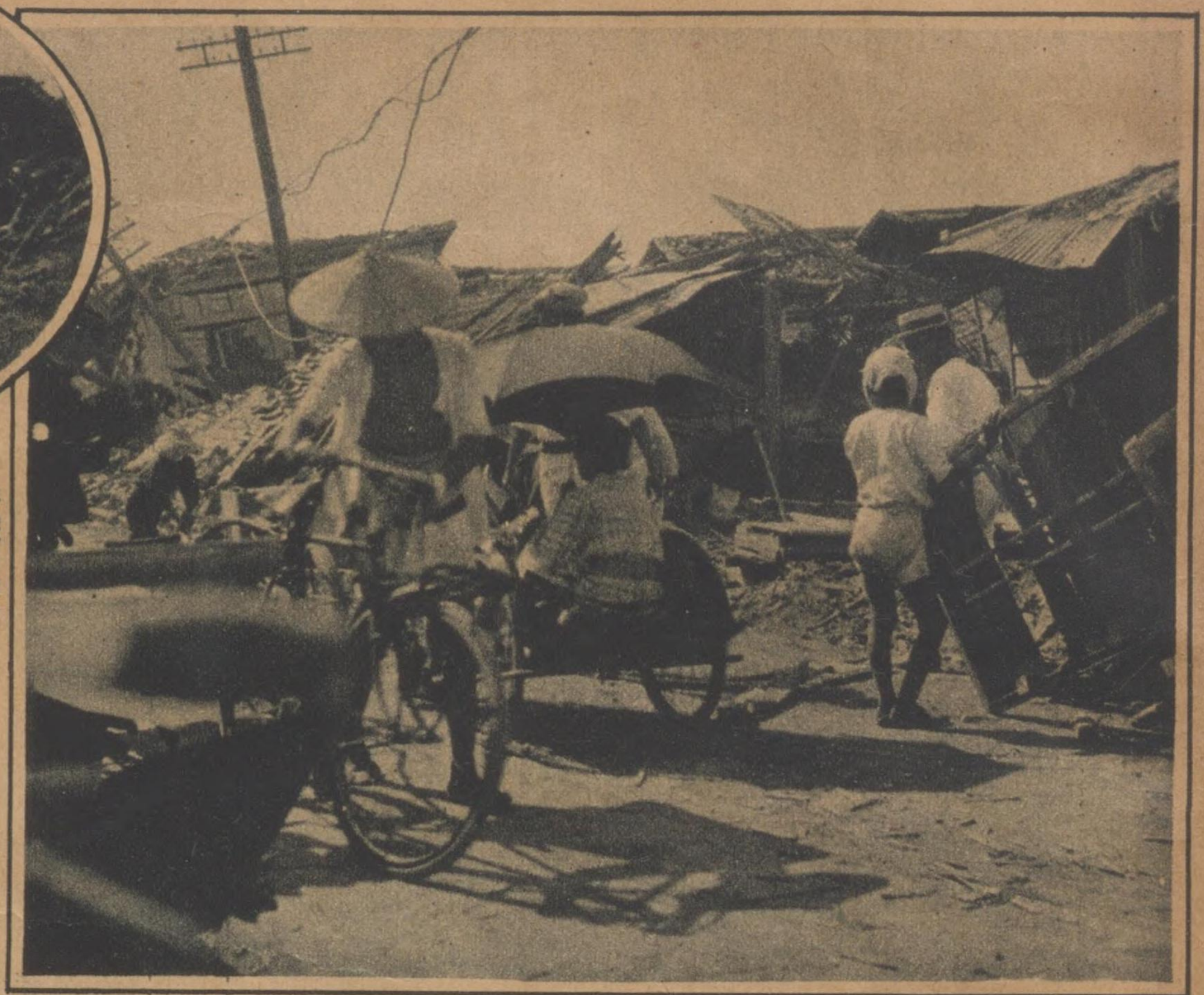
誰のものとも判じ得ぬ骨の山、それは數萬の燒死者を出した本所被服廠跡の光景だ、せめてもの心やりか門前はなき人を慕ふ遺族の群で市をなせばお坊サンが手摑きもあざやかに桝ばかりで骨の山を崩して行く、まるで冒險小說にでもありさうな場面だ



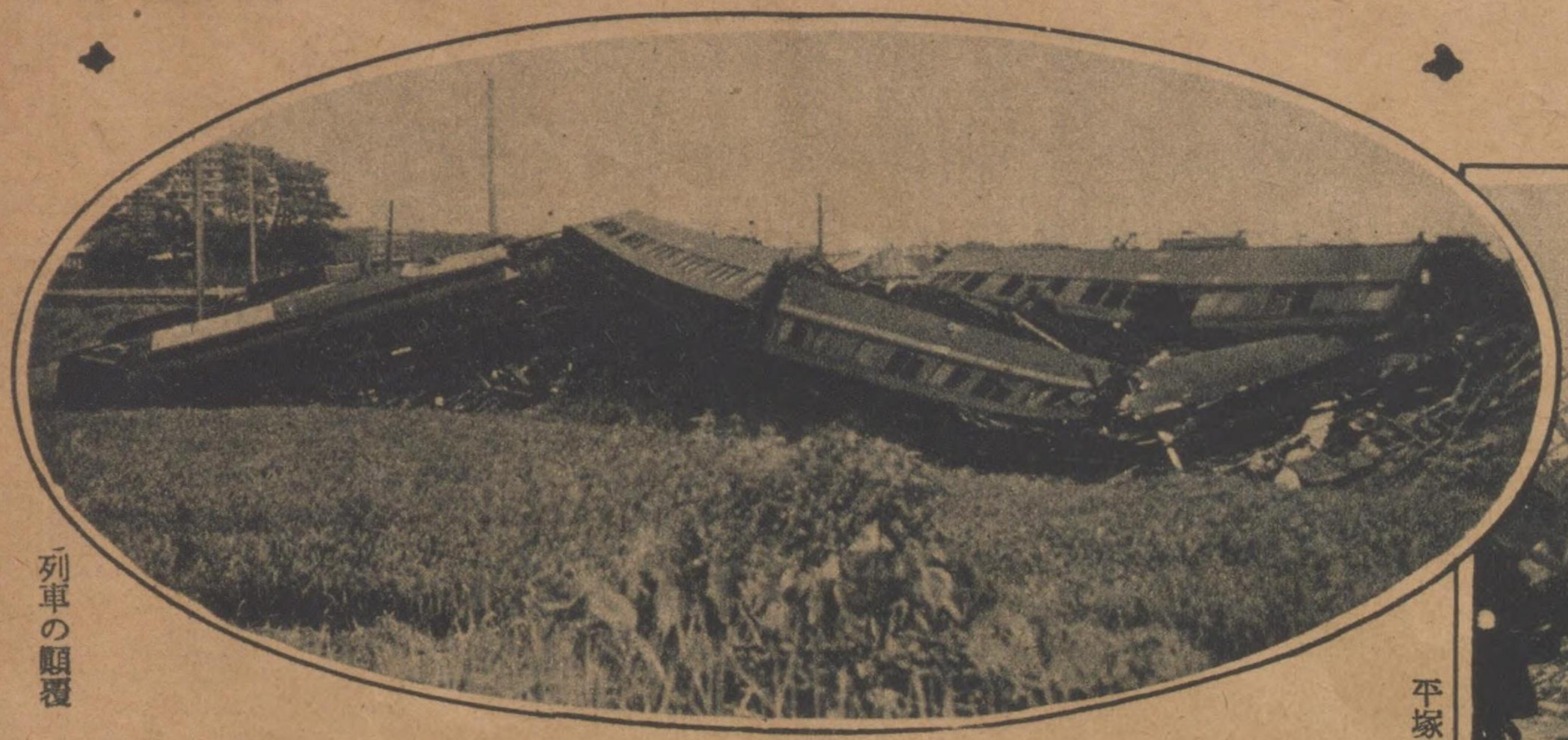
重傷者を安全地帶へ



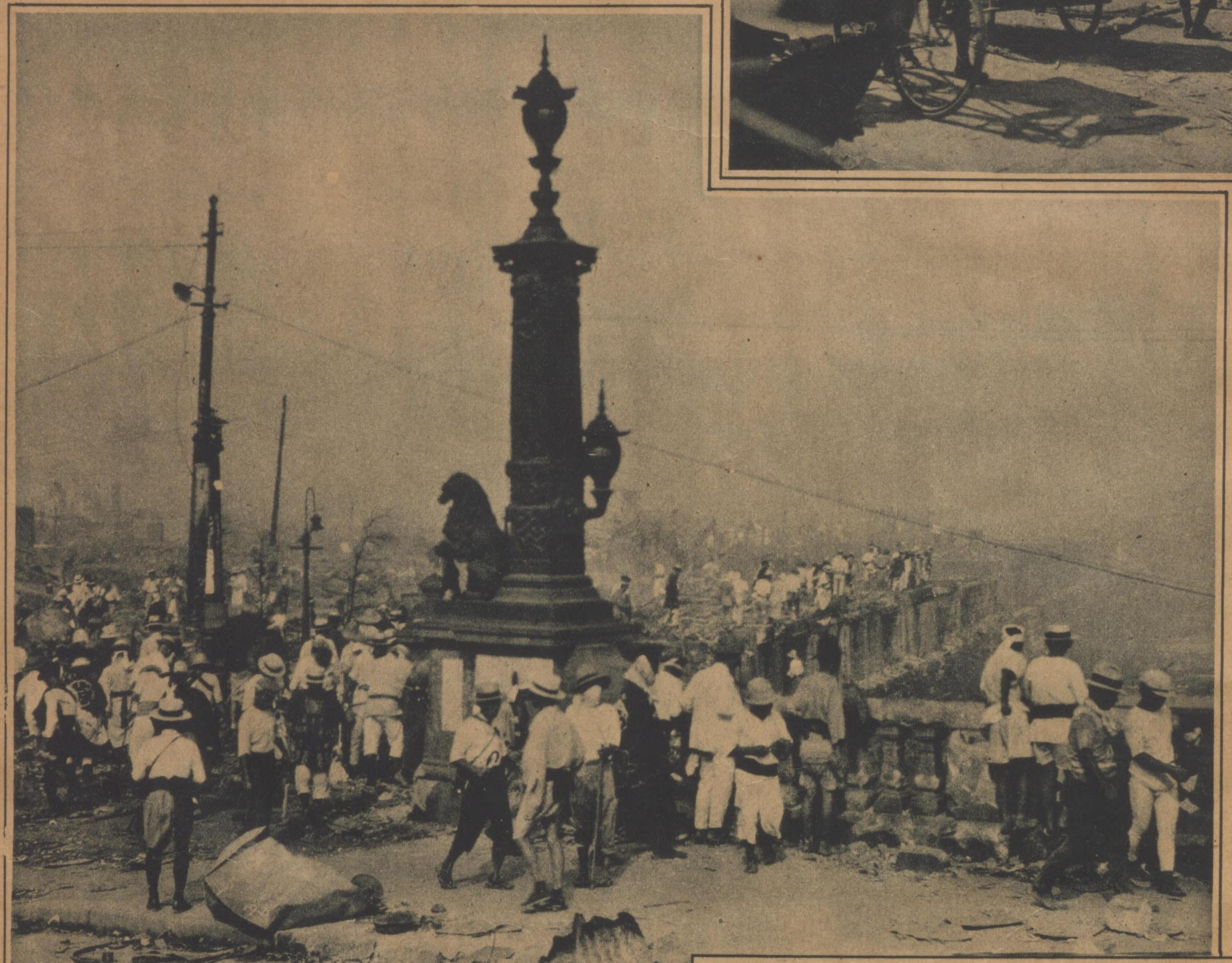
都落ちを爭ふ人々（大宮停車場の混雜）



平塚の慘狀

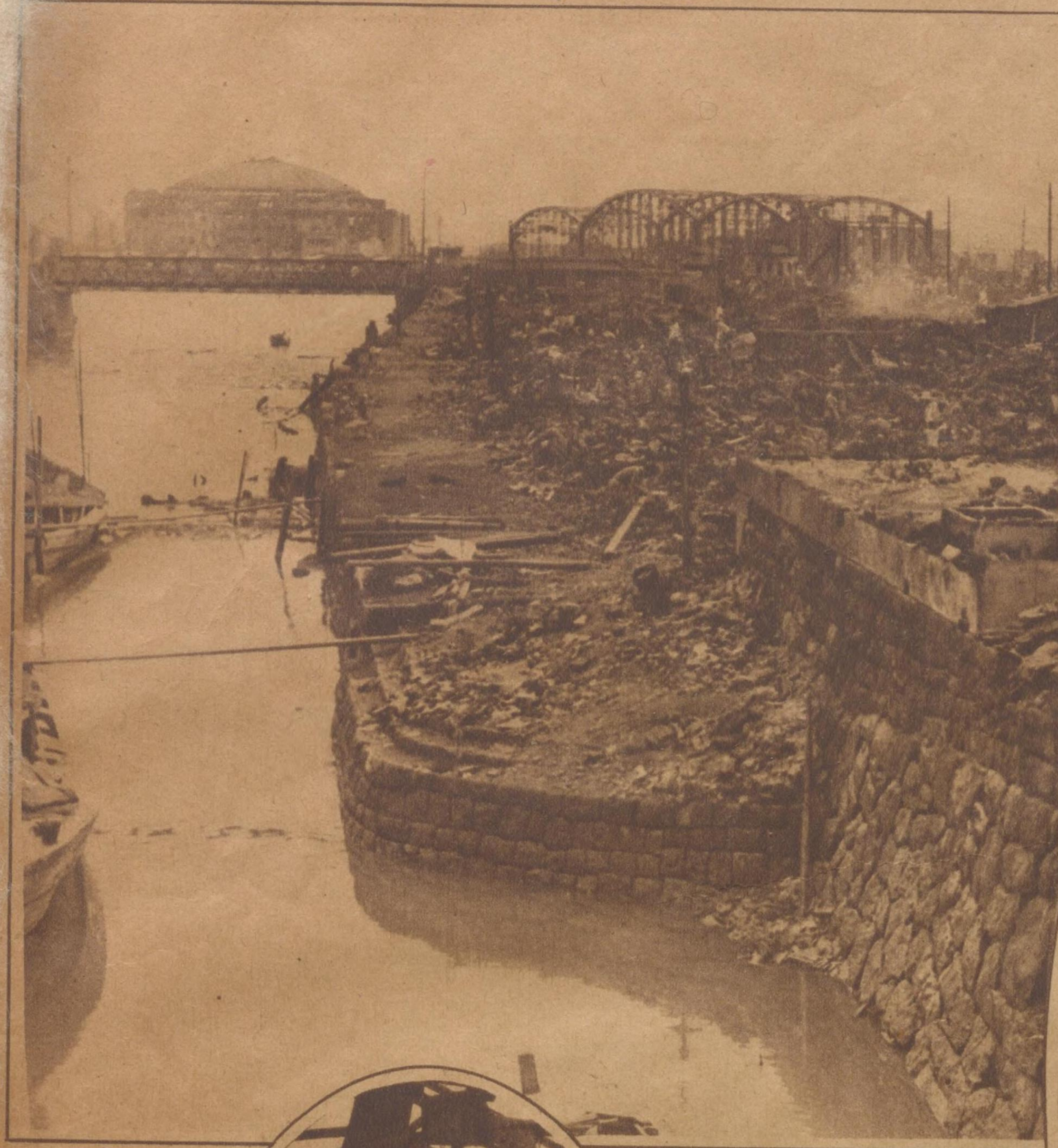


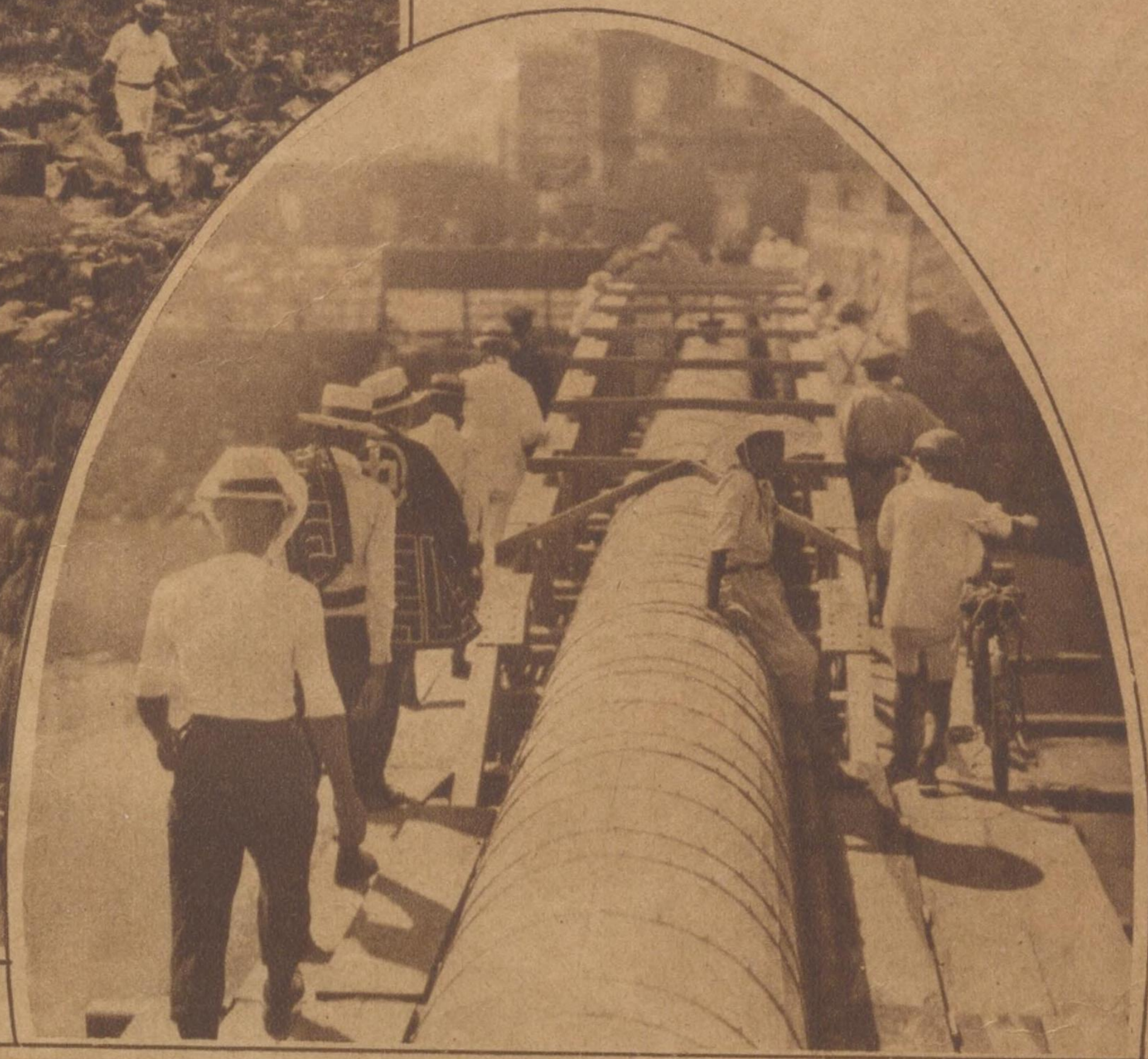
列車の顛覆

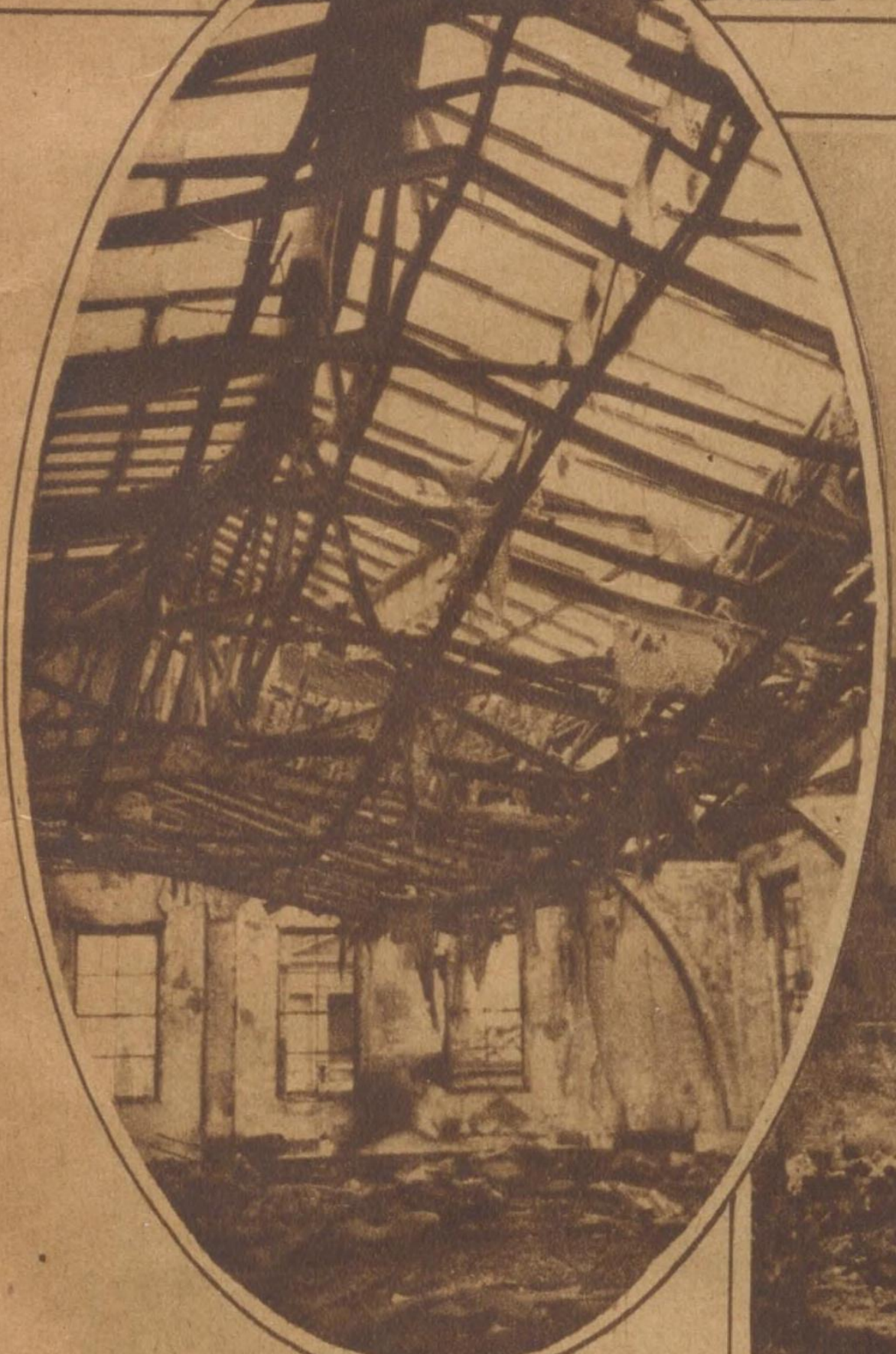


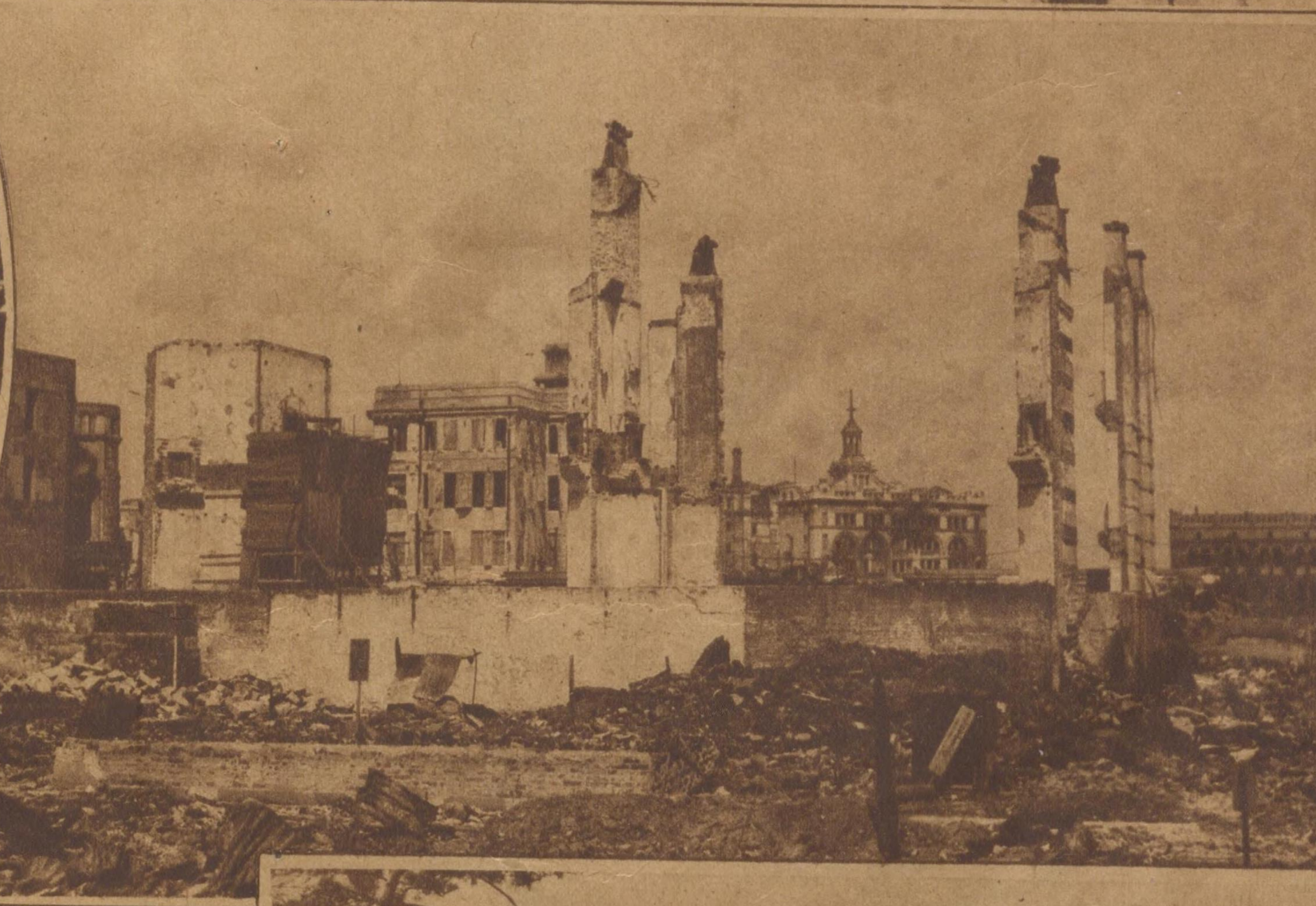
變り果てた日本橋附近

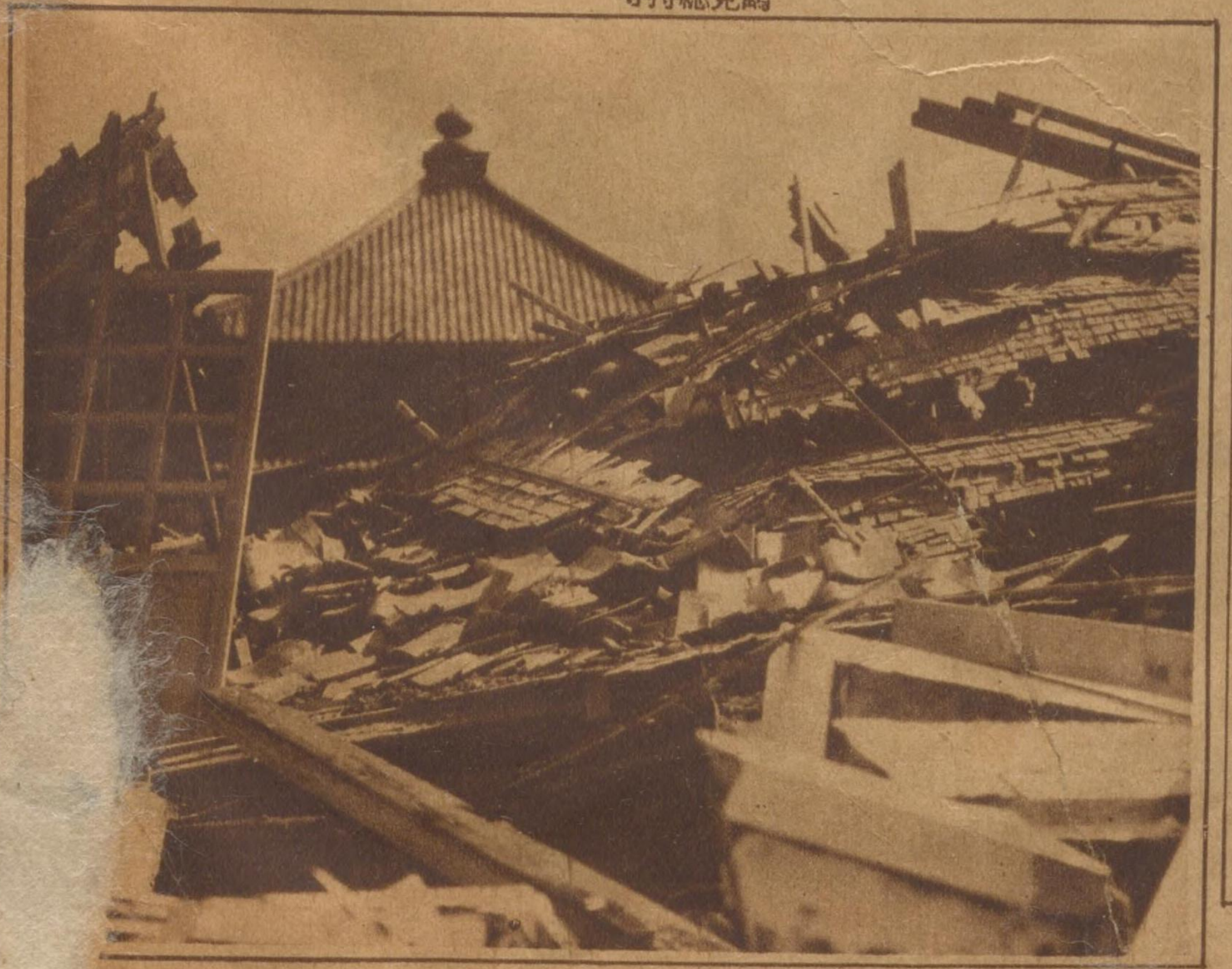
文字通り焦土と化した洲崎（右）と吉原（左）

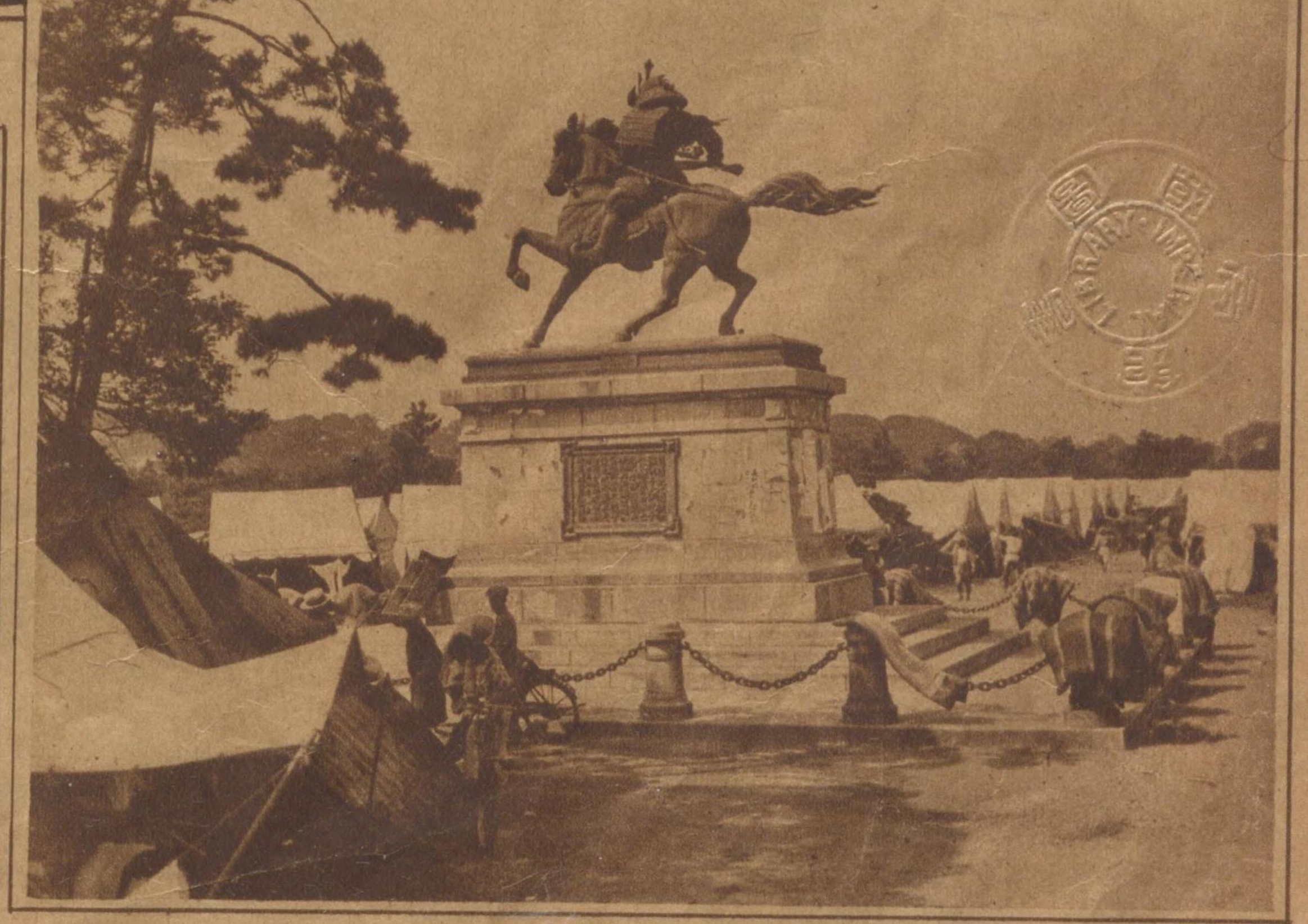

淺草橋から見た國技館

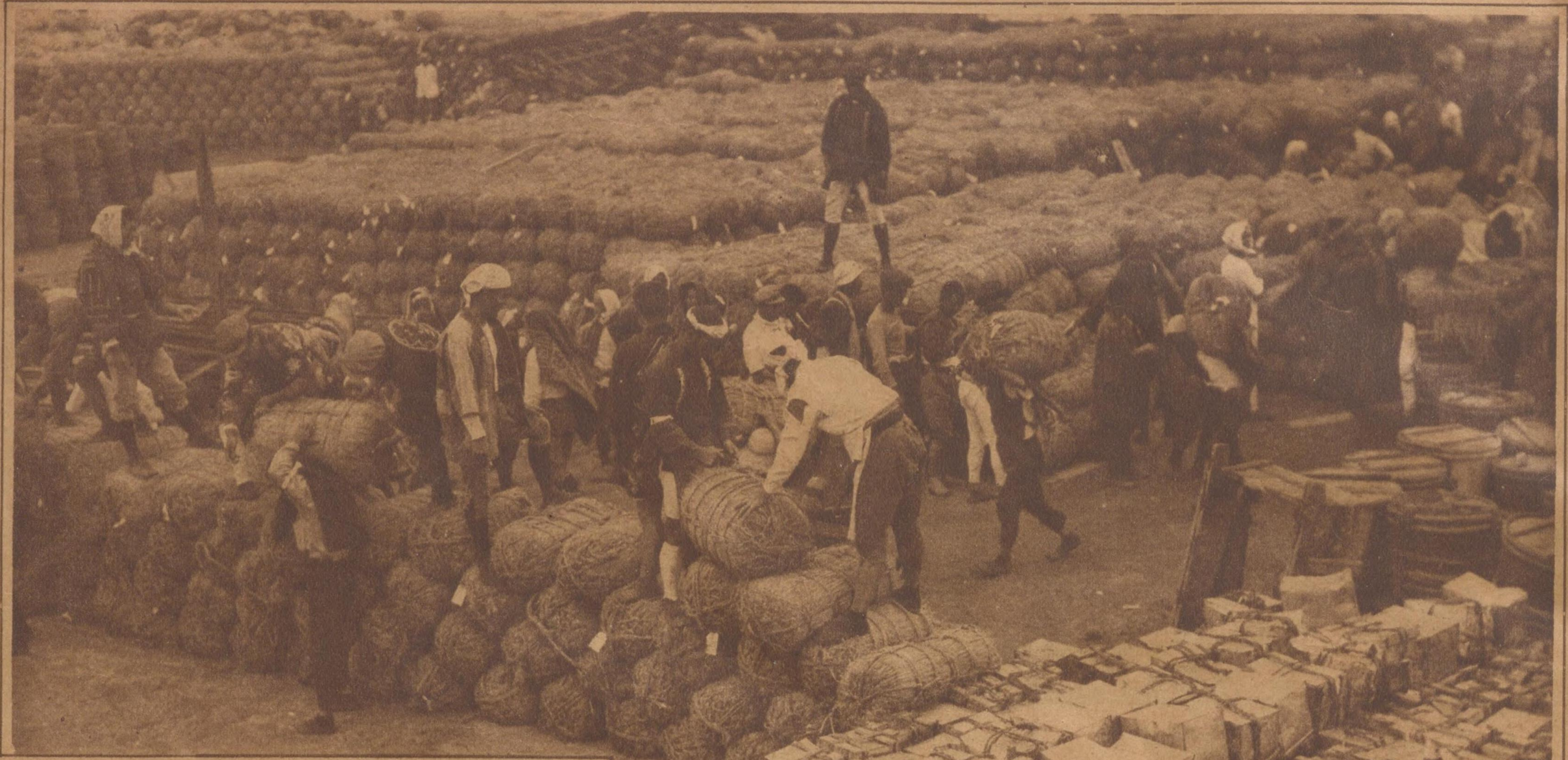

瓦斯管を利用して（神田橋）

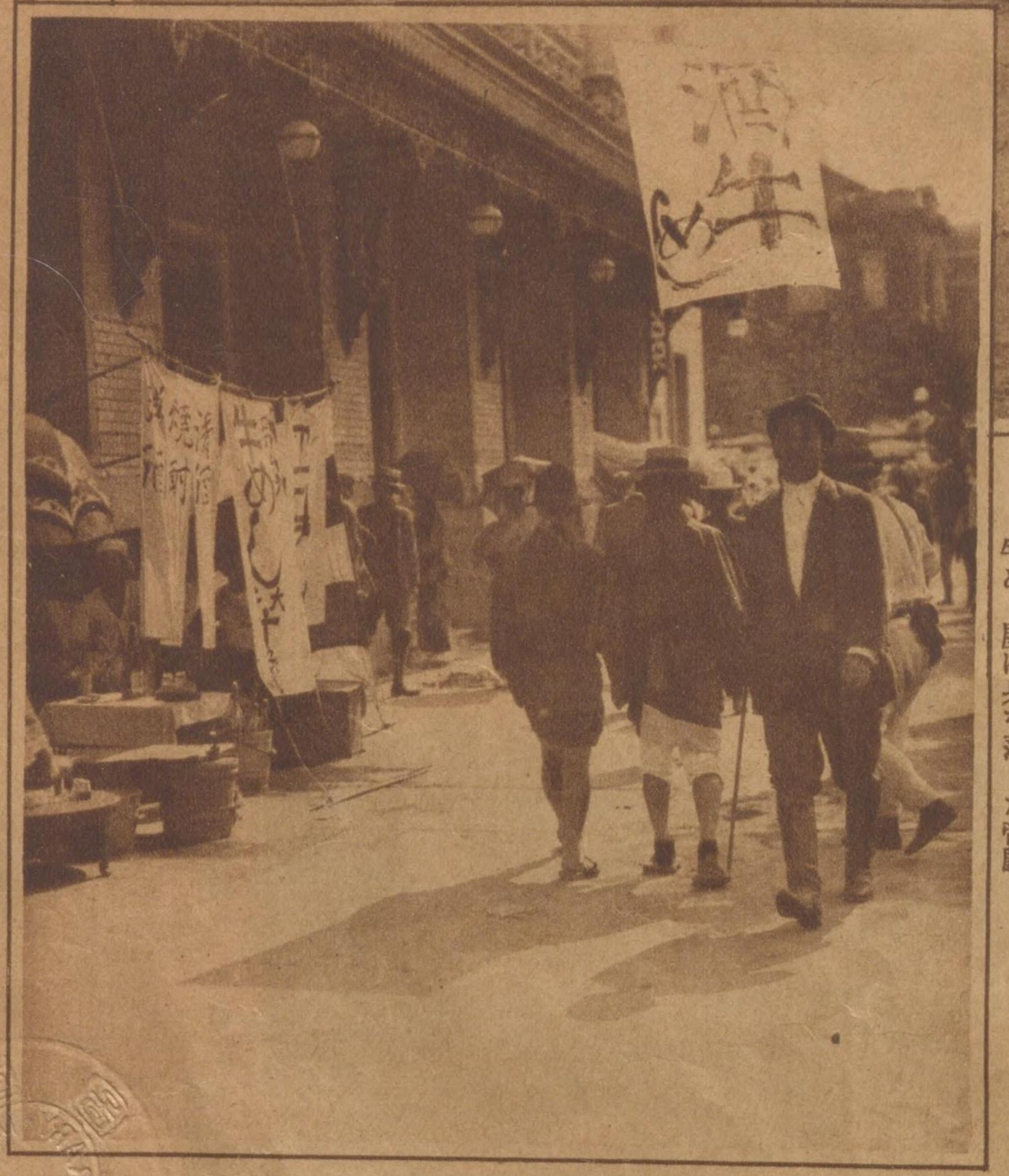

まるで飴細工（三越ギャラリーの鐵骨と硝子）

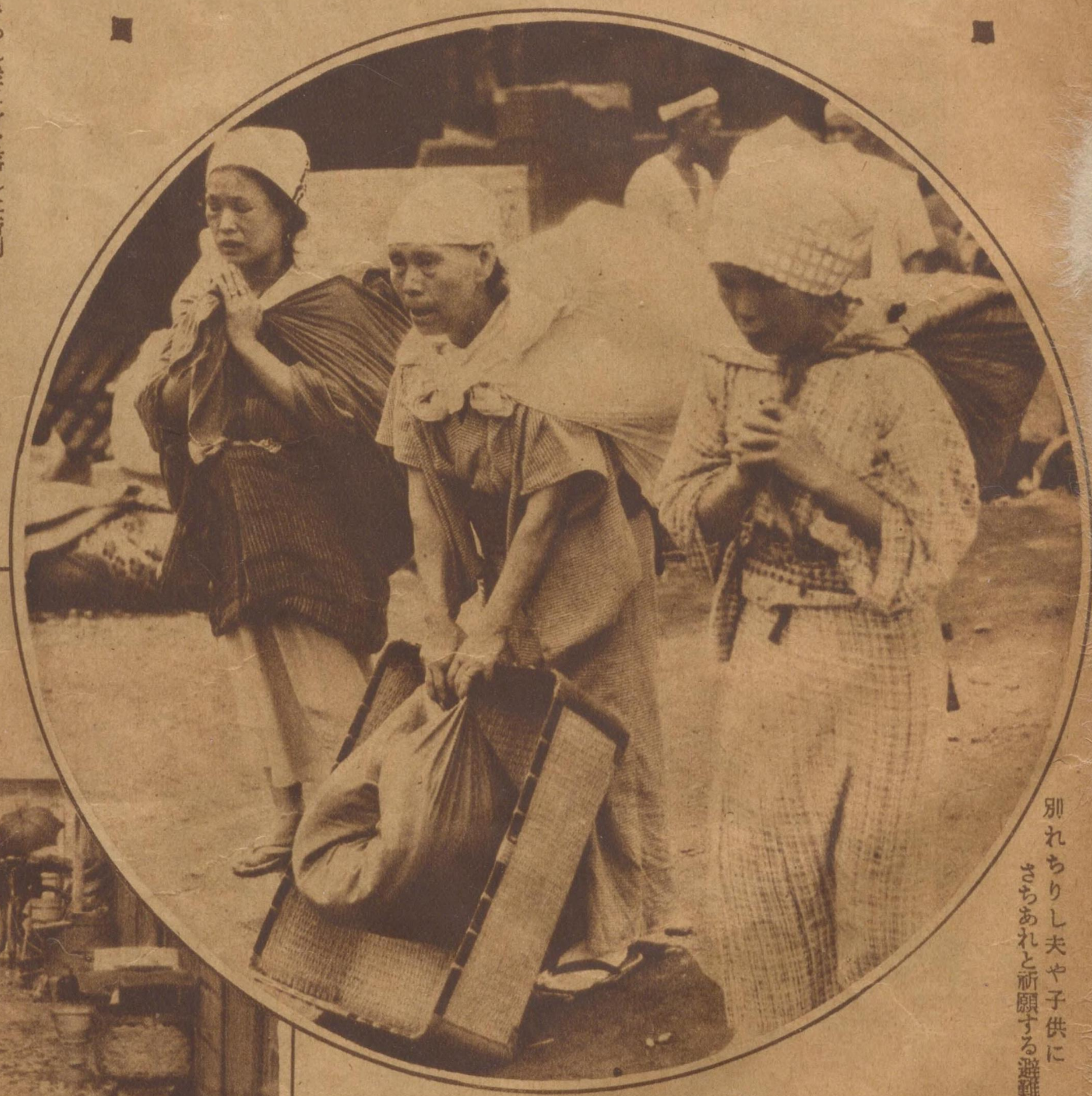

外見だけは立派に見ゆる三越の遠望

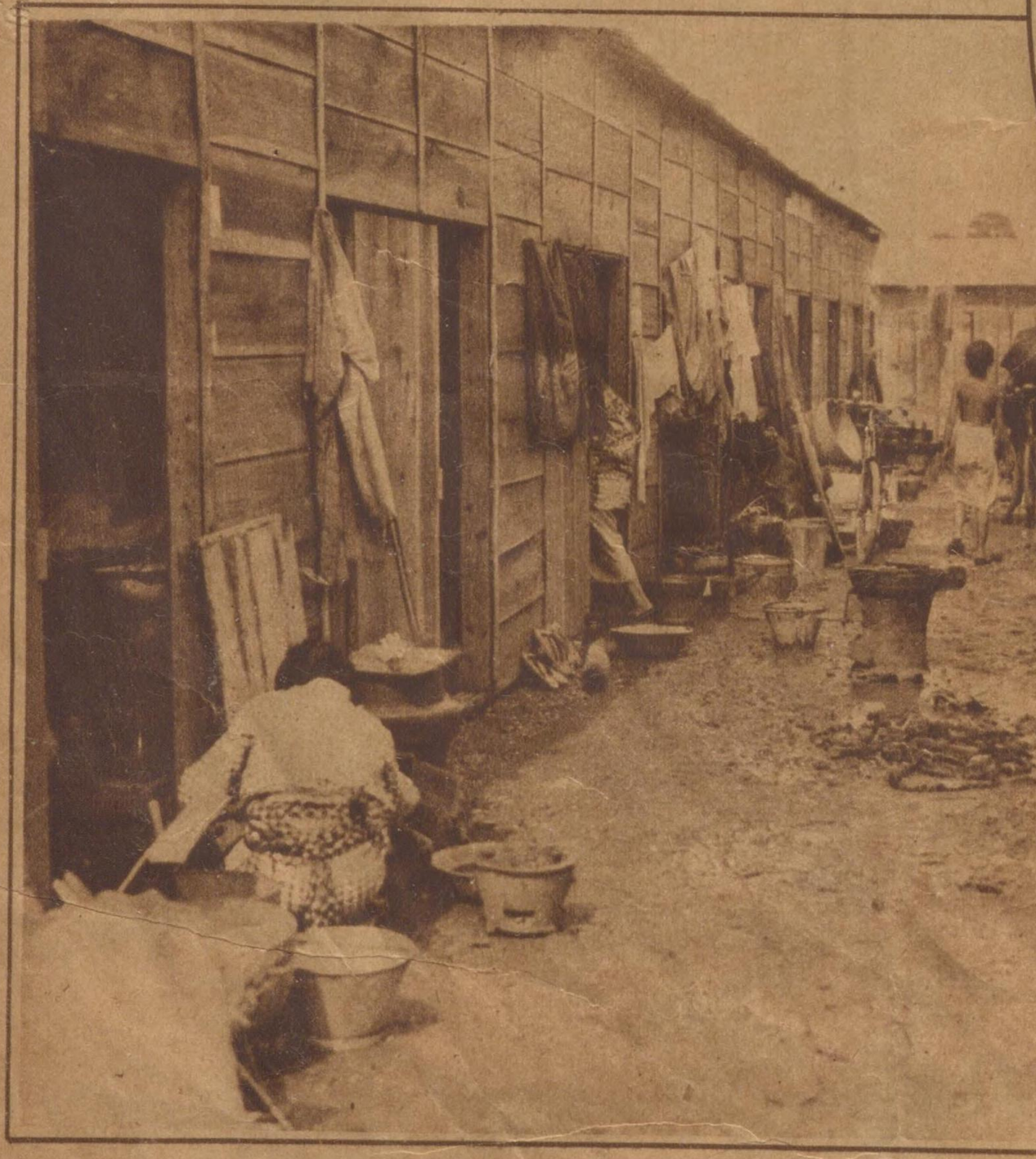

鶴見總持寺


物干臺にされた楠公

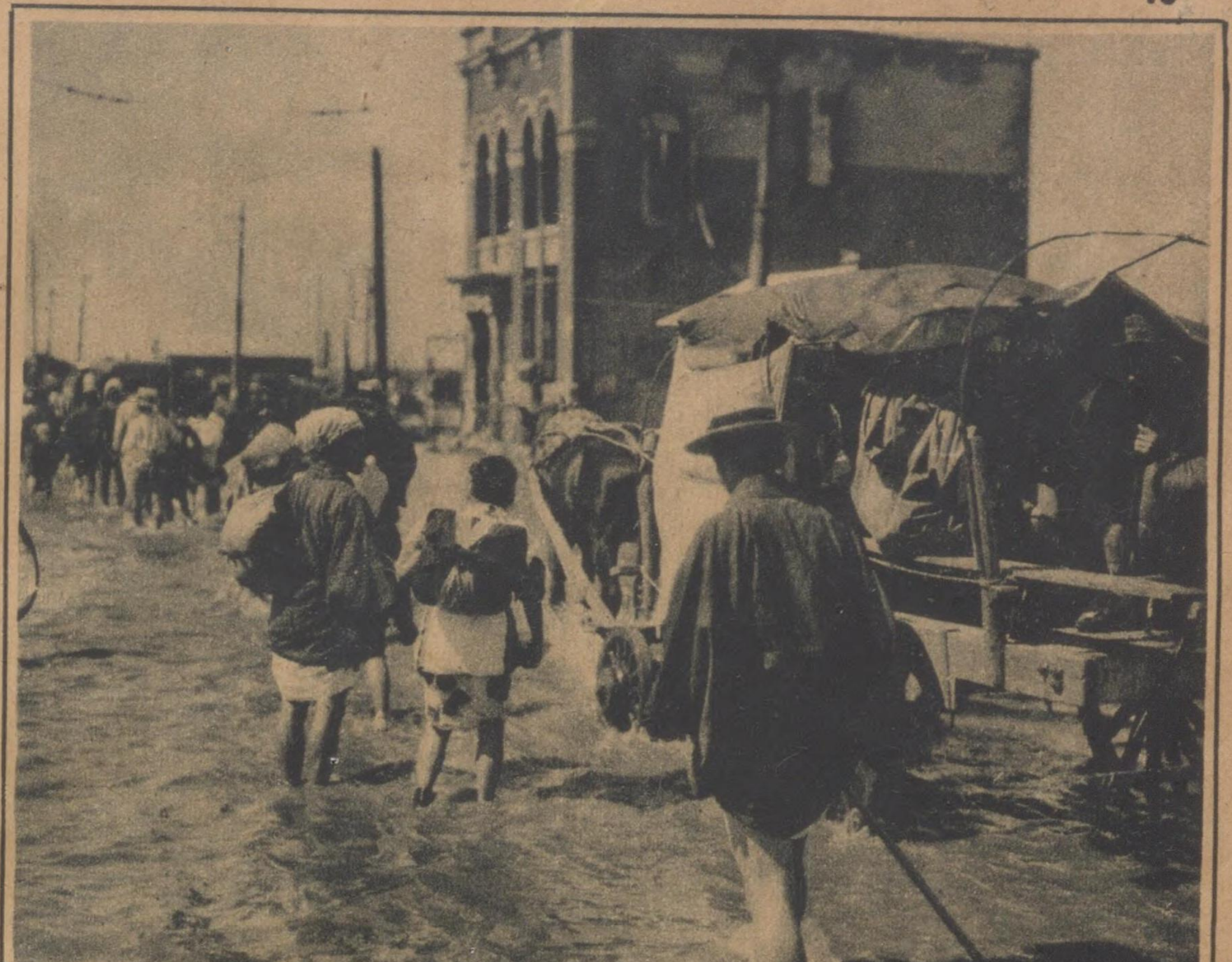

山と積まれた芝浦の救濟品


牛めし屋に身を落した帝劇

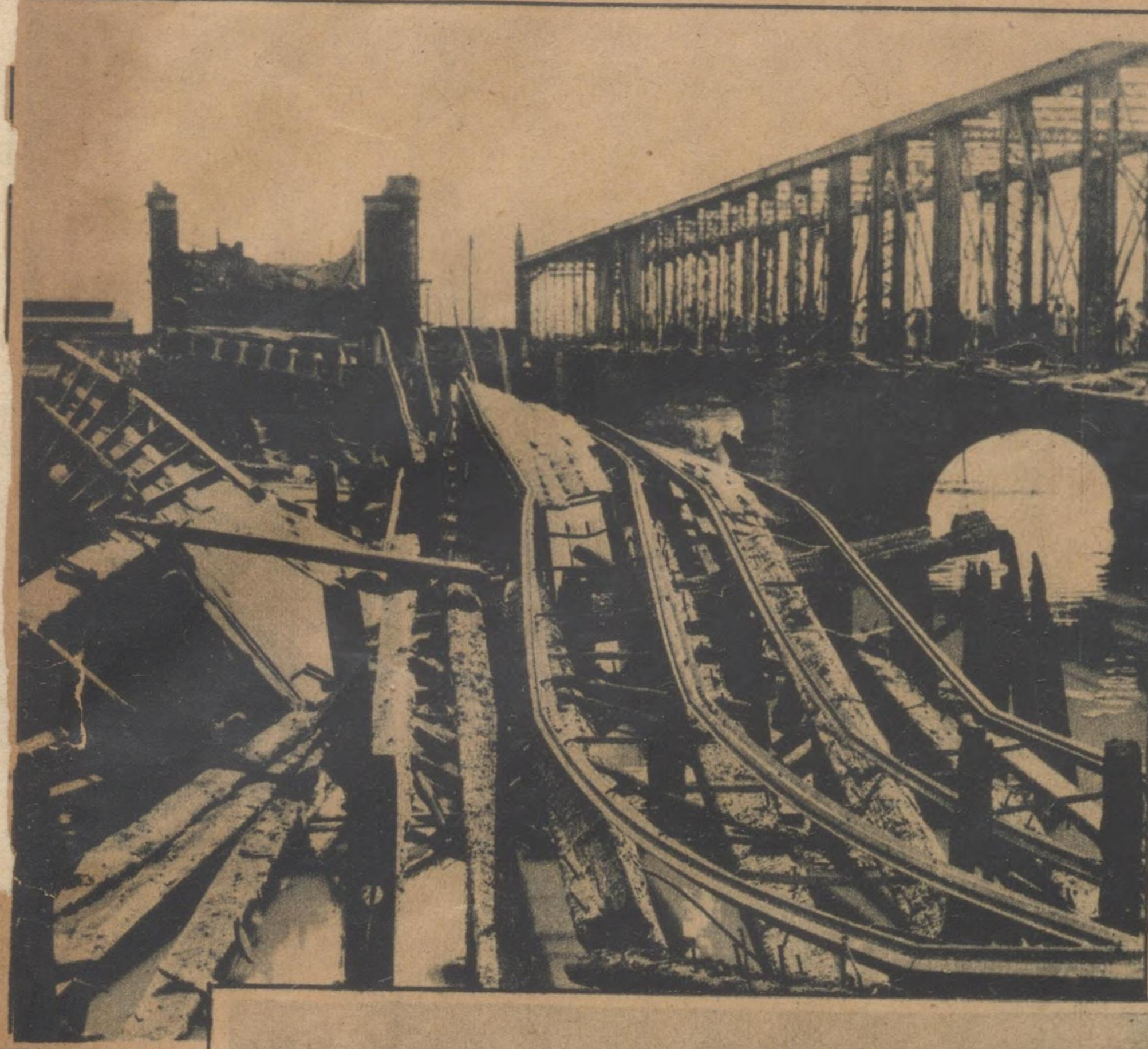

別れちりし夫や子供に
さちあれと祈願する避難民


日比谷のバラック生活

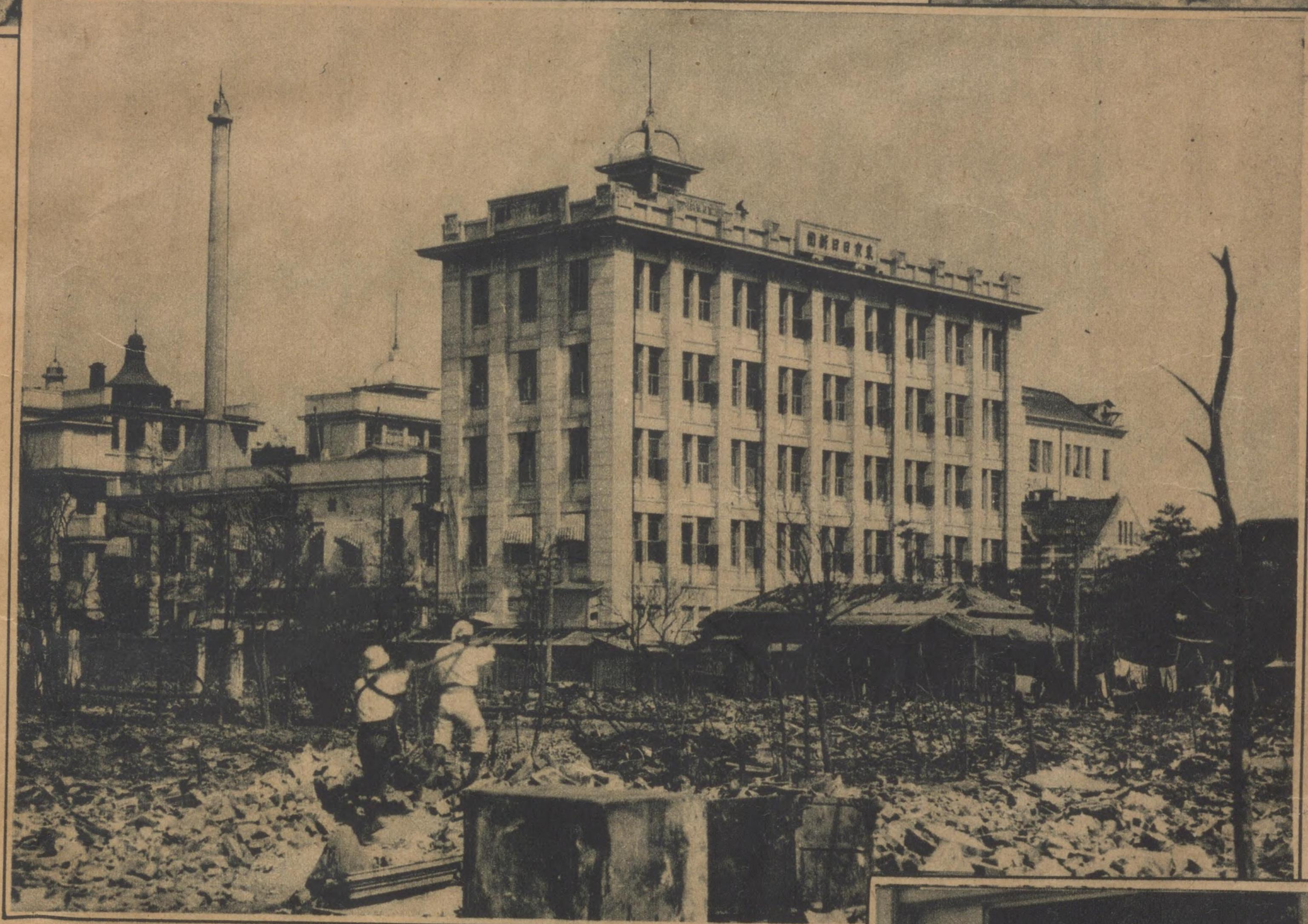
415
10



火の後に水――江東橋附近

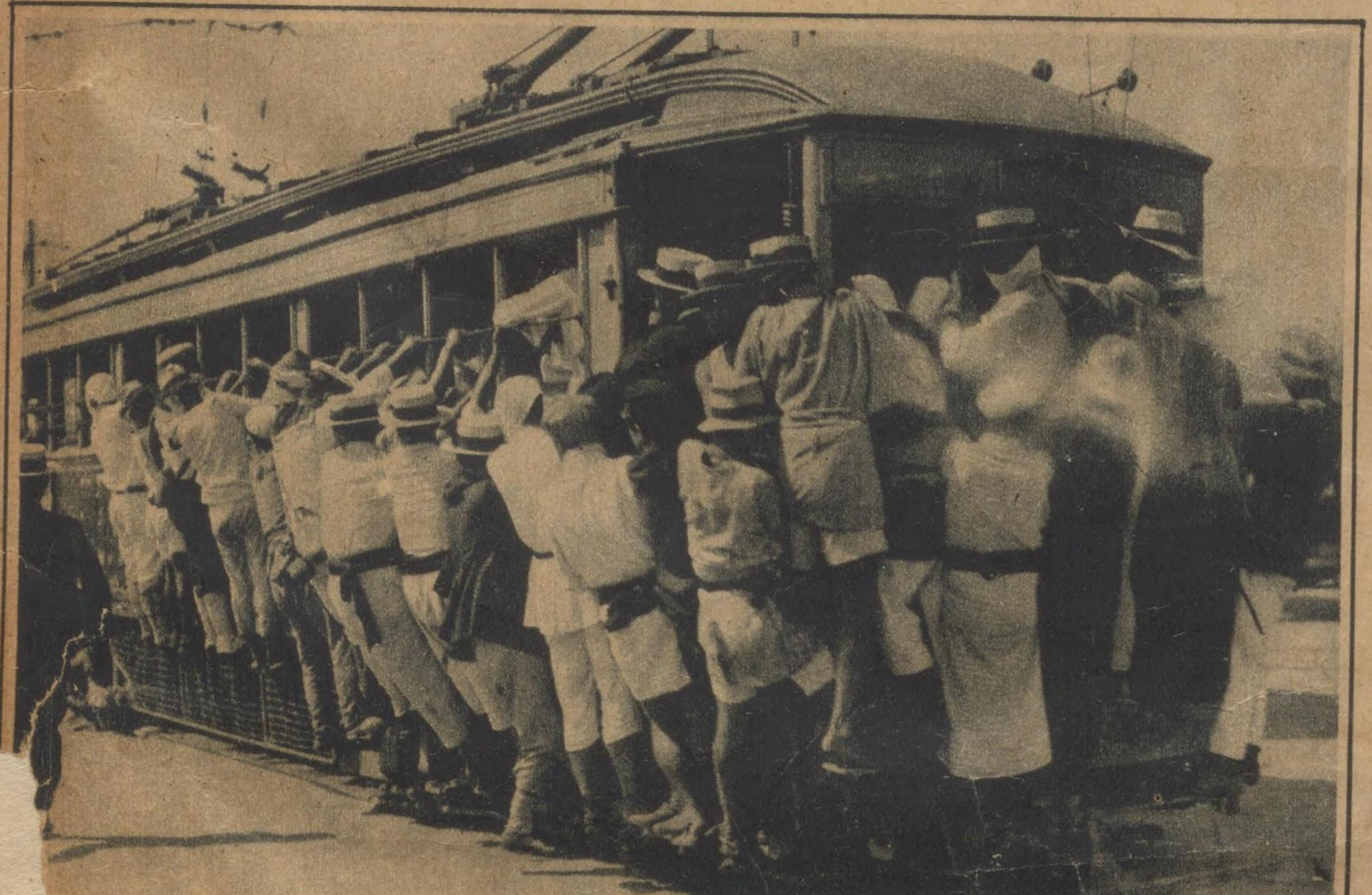


没落した吾妻橋の電車軌道



幸に震害火難を免がれた本社

帝都復興審議會初顔合せ（右より加藤憲政會總裁、伊東巳代治伯、澁澤榮一子）



鈴なり

發行所　東京麴町區有樂町二丁目二番地　株式會社大阪毎日新聞社東京支店、東京日日新聞發行所　編輯兼發行

京
國 圖
書
館 藏